令和 4 年度 公益社団法人長崎県理学療法士協会

小児リハビリテーション MAP 長崎県版”の認知度・活用度等の調査報告書

令和 5 年 4 月

公益社団法人長崎県理学療法士協会

「小児リハビリテーション MAP 長崎県版”の認知度・活用度等の調査」サマリー

【調査背景・目的】

2004 年に初版を発刊した小児リハビリテーション MAP（以下小児リハ MAP）は以降 3 回の改訂を行った。本調査は令和 6 年度に実施予定である 4 回目の改訂に向けて小児リハ MAP の認知度・活用度を把握することを目的とした。

【調査方法】

回答方法：クエスタントによる入力

調査対象：長崎県理学療法士協会会員（1,877 名）、長崎県作業療法士会会員（952 名）
長崎県言語聴覚士会会員（295 名）

調査期間：2023 年 1 月 31 日から 2023 年 2 月 28 日

調査項目：

①職種
②免許取得からの経験年数
③所属機関名
④所属機関の機能
⑤所属機関の小児への対応状況
⑥回答者個人の小児への対応状況
⑦小児リハ MAP 認知度
⑧小児リハ MAP を知った経路
⑨小児リハ MAP の紹介実績・紹介先
⑩小児リハ MAP の情報提供実績・情報提供先
⑪小児リハ MAP の具体的な活用事例
⑫小児リハ MAP が役に立ったこと
⑬掲載機関への問い合わせの有無
⑭掲載内容の変更点の有無
⑮掲載されて良かった点・困った点
⑯今後の改訂に向けて追加した方が良いと考える機関の情報
⑰今後の改訂に向けて支援に役立つと考える情報
⑱活用度向上のために必要なこと

【解析】

得られたデータは単純集計を実施、必要に応じてクロス集計を行い、グラフ化した。

【調査結果の概要】

（調査の回答数）

□ 290 施設、749 名から回答が得られた。（回答率 24.0%）、内訳は理学療法士 504 名（回答率 26.9%）、作業療法士 148 名（回答率 15.5%）、言語聴覚士 97 名（回答率 32.9%）であった。

（小児リハ MAP の認知度）

□ 認知度は「知っている」285 人（38%）、「知らない」464 人（62%）であった。職種別の認知度をみると理学療法士 203 人（40%）、作業療法士 47 人（32%）、言語聴覚士 35 人（36%）であった。

□ 全体の認知度 38%の中で、障害児（者）対応者（専従、兼任、出向の合計）の認知度は 57%であった。

□ 障害児（者）専門の医療または福祉機関、重症心身障害児（者）施設、行政機関においては「知っている」が「知らない」を上回った。その他の機関においては逆の結果であった。

□ 経験年数別の認知度において、20 年目以下は「知らない」が「知っている」を上回った。21 年目以上においては逆の結果であった。

（小児リハ MAP の紹介実績・掲載内容の情報提供実績）

□ 小児リハ MAP の紹介実績については全体で 31%の内、障害児（者）対応者は 37%、掲載内容の情報提供実績については、全体で 24%の内、障害児（者）対応者は 34%であった。

□ 紹介先は「PT・OT・ST のリハ職」が最多であり、情報提供先は「患者・家族」が最多であった。

□ 機関の機能別では急性期病院において認知度は高く、活用度として小児リハ MAP の紹介実績と情報提供実績が最も多かった。その中でも急性期病院の障害児（者）対応者の紹介実績と情報提供実績は約 40%であった。

（小児リハ MAP を知った経路）

□ 小児リハ MAP を知った経路は「調査に回答した」・「掲載機関である」を除いては「PT.OT.ST 各協会・士会のホームページを見た」が最多であり、次いで「PT.OT.ST 各協会・士会からの通知」であった。

（小児リハ MAP の活用事例）

□ 利用者への情報提供や紹介先を探すための情報収集等の活用事例を複数認めた。

□ 掲載機関においては小児リハ MAP の情報を基に問い合わせを受けた機関を認めた。

□ 「回答者自身の知識の蓄積」、「常に情報があるという安心感」等に役立っていた。

□ 情報が更新されていないこと、更新されているか不明であることにより使用し難いという意見が散見された。

（小児リハ MAP の今後の改訂に向けて支援に役立つと考える情報）

□ 「小児疾患の概要」「制度の活用について」「座位保持椅子等、補装具に関する内容」等が上位に挙がったが、他にも支援に関する多くの情報を求める意見が挙がった。

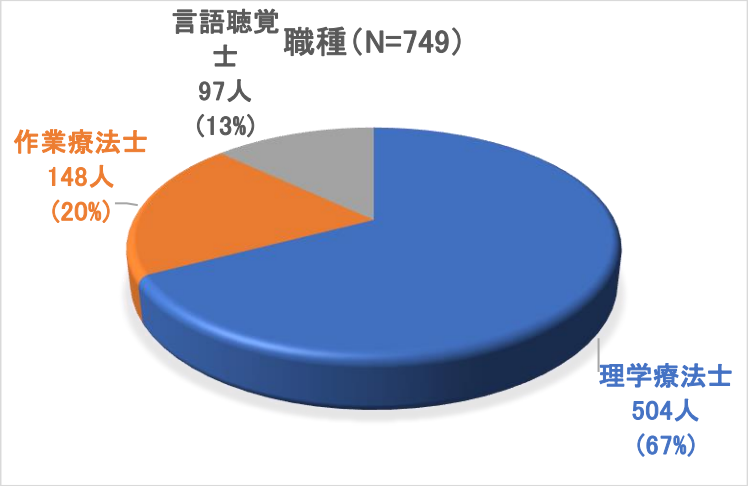
（小児リハ MAP の活用度向上のために必要なこと）

□ 今後の活用度向上に向けて、「定期的な情報発信」、「リーフレット・ポスターの配布」、「スマホ対応」、「他機関・他団体への周知」、「SNS の利用」、「見やすい工夫」、「リンク機能」等が挙がった。

Ⅰ．全体集計(質問項目毎の集計)

Q1 職種をお答えください。

理学療法士	504
作業療法士	148
言語聴覚士	97
計	749



【全体の回答数・回答率】

290 施設、749 名から回答を得られた。（回答率 24.0%）

【内訳】

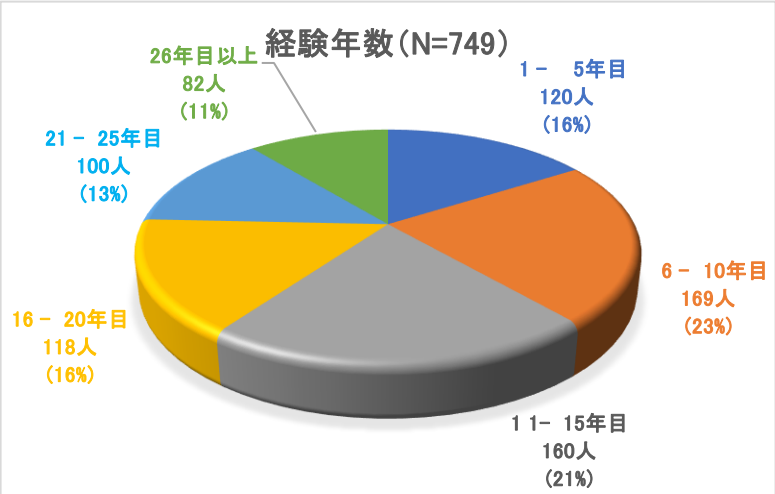
理学療法士 504 名（回答率 26.9%）、作業療法士 148 名（回答率 15.5%）

言語聴覚士 97 名（回答率 32.9%）

回答数は多い順に理学療法士、作業療法士・言語聴覚士であった。これは所属会員数が多い順に準じた並びとなったが、回答率は言語聴覚士が高かった

Q2 療法士免許取得からの経験年数をお答えください。

1－5 年目	120
6－10 年目	169
11－15 年目	160
16－20 年目	118
21－25 年目	100
26 年目以上	82
計	749



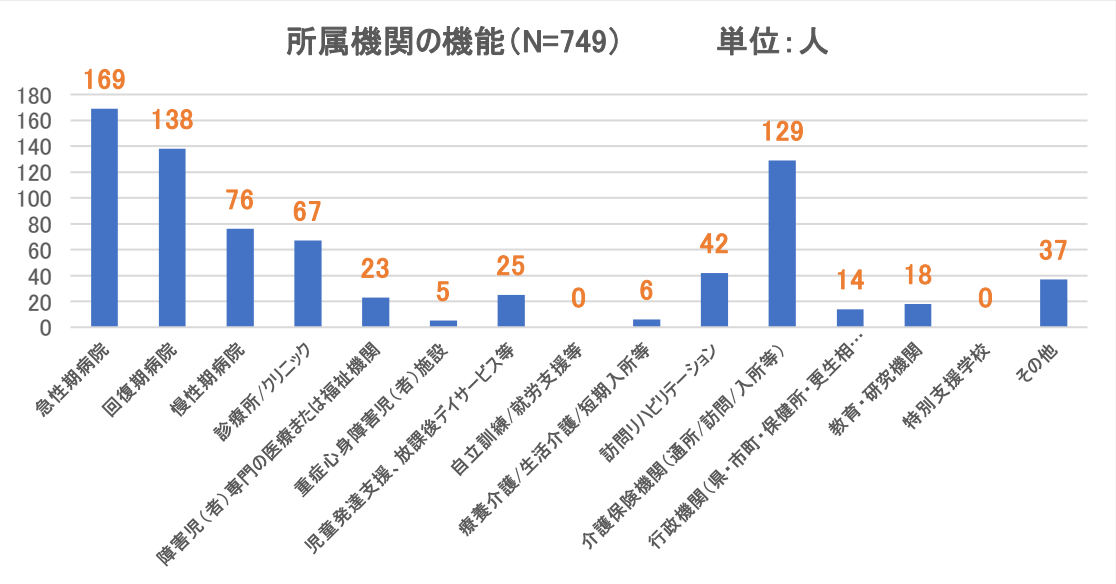
経験年数別回答数は多い順に 6-10 年目、11-15 年目、1-5 年目、16-20 年目、21-25 年目、26 年目以上であった。比較的経験年数が少ない方の回答を多く認めた。日本理学療法士協会・日本作業療法士協会・日本言語聴覚士協会が公表している会員年齢分布も 21 歳-40 歳の人数が多く、回答数に現れているかもしれない。

Q3　所属機関名をご入力ください。（結果の掲載省略）

Q4　所属機関の機能をお選びください。

急性期病院	169
回復期病院	138
慢性期病院	76
診療所/クリニック	67
障害児（者）専門の医療または福祉機関	23
重症心身障害児（者）施設	5
児童発達支援、放課後デイサービス等	25
自立訓練/就労支援等	0
療養介護/生活介護/短期入所等	6
訪問リハビリテーション	42
介護保険機関（通所/訪問/入所等）	129
行政機関（県・市町・保健所・更生相談所・支援センター等）	14
教育・研究機関	18
特別支援学校	0
その他	37
計	749

【その他　※自由入力】
地域包括ケア
精神科病院（8）
通所介護施設
訪問看護ステーション
急性期～慢性期等の病院
急性期、回復期（3）
障害者支援施設
空白（2）
一般病院(5)
地域包括ケア病院（2）
訪問看護ステーション（3）
急性期から回復期、包括病棟（3）
自宅
急性期、回復期、慢性期機能を備えた病院
医療機関
老健
総合病院（2）



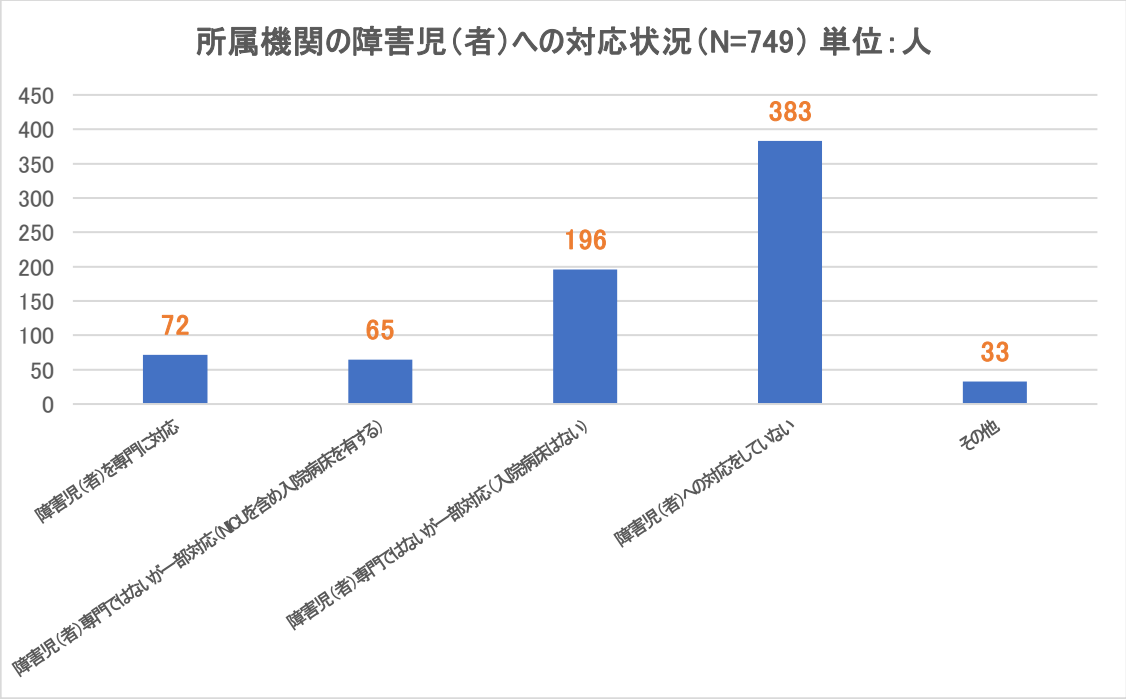
回答数が多い順に急性期病院（169 名）、回復期病院（138 名）、介護保険施設（129 名）、慢性期病院（76 名）、診療所・クリニック（67 名）であった。

Q5　所属機関の障害児（者）への対応状況をお選びください。

障害児（者）を専門に対応	72
障害児（者）専門ではないが一部対応（NICU を含め入院病床を有する）	65
障害児（者）専門ではないが一部対応（入院病床はない）	196
障害児（者）への対応をしていない	383
その他	33
計	749

【その他　※自由入力を項目別に分類】

【空白（7）】
【一部対応・疾患により対応】
訪問リハビリのみ一部対応
一部対応
専門ではないが一部対応（NICU なし、入院病床あり）
所属機関は対応していないが、所属機関の付属病院等では対応している。
維持期の継続リハビリのみ
外来にて対応中
在宅での支援
盲目の患者受け入れ歴あり
外勤先で障害児・者ともに数名ですが依頼があれば対応しています
障害児が回復期リハ病棟対象疾患等で入院してくることはあります。
障害者に内科・外科疾患があり治療が必要な場合は対応している（入院する場合もある）
【相談（業務）対応】
直接の支援は行わず、必要時の相談や間接支援を行なっている（4）
相談機能(行政機関)
【成人・高齢の方に対応】
障がい者の方への対応はしてますが、現在成人した方ばかりです。
介護老人保健施設のため
高齢のダウン症の方を対応
高齢者対応　障害者専門ではないが入所対応床を有する
障害者の施設入所可
介護保険所有者のみ対応
【その他】
一般病院
教育機関（2）
診断を受けている発達障害児と診断前の気になる子どもの対応をしている



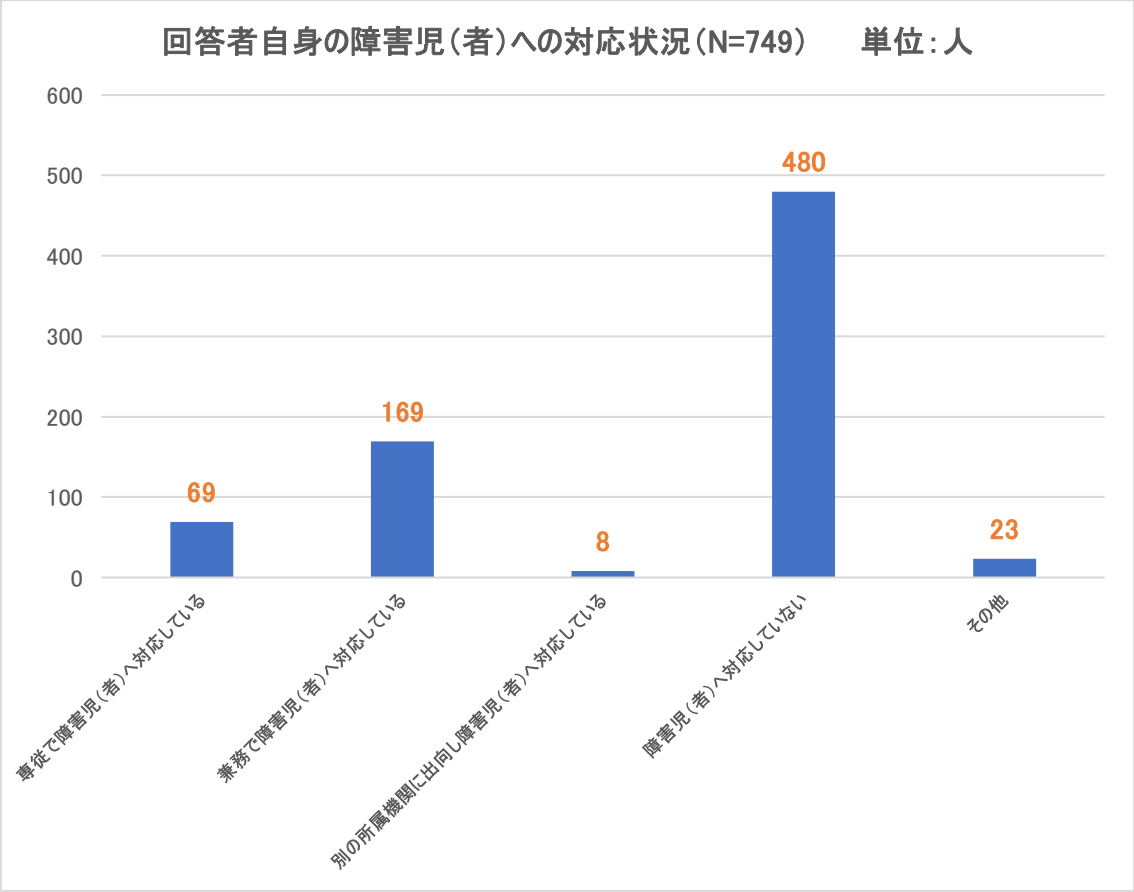
回答 749 人の内、「障害児（者）への対応をしていない」と回答したものが 383 人おり、過半数を占めた。
障害児（者）に一部対応し、入院病床を有さない機関に所属している回答者が 196 人おり、障害児（者）に対応している機関の中では最多であった。それに「専門に対応」・「一部対応（NICU 含め入院病床を有する）を加えると障害児（者）に対応している機関に所属している回答者の合計は 343 人であった。
「その他」には「一部対応・疾患により対応」、「相談業務で対応」、「成人・高齢者に対応」等の回答を認めた。

Q6　回答者ご自身の障害児（者）への対応状況について、当てはまる内容を下記の選択肢からお選びください。

専従で障害児（者）へ対応している	69
兼務で障害児（者）へ対応している	169
別の所属機関に出向し障害児（者）へ対応している	8
障害児（者）へ対応していない	480
その他	23
計	749

【その他　※自由入力を項目別に分類】

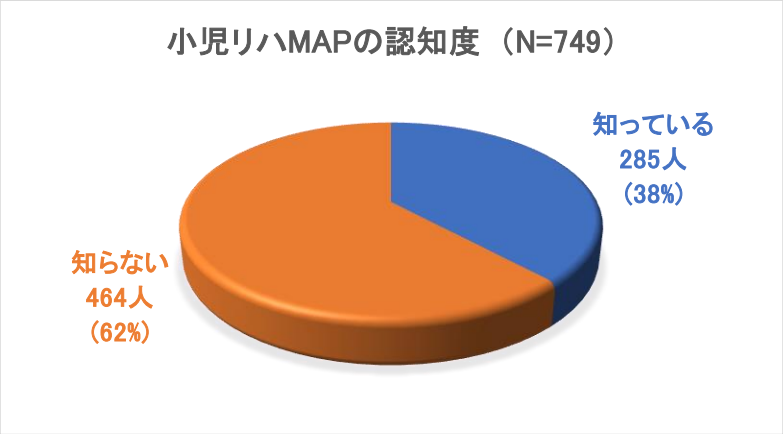
【一部対応・疾患により対応】
訪問リハとして対応している（3）
外来はなく筋ジス病棟があり、40 歳以上の方が多い
相談があれば検討して対応している
今までに 2 回ほど対応したことがある程度
外来リハでの対応（2）
以前対応していた（2）
短期入所利用があれば少なからず対応
【相談（業務）対応】
相談の上障害児の対応している
相談対応（2）
【成人・高齢の方に対応】
高齢者中心の施設であるが、入所対応している
介護認定されている方には対応（2）
【その他】
障害児は受け入れ経験なし
以前は相談員をしていた
自分の子供が障害児です。
障害者としての対応しているのではなく、一患者様としての対応をしている
脳血管疾患や運動器疾患、廃用症候群患者を多く対応
わからない



回答 749 人の内、「障害児（者）への対応をしていない」と回答したものが 480 人おり、過半数を占めた。
「兼務で障害児（者）に対応している」回答者が 169 人おり、障害児（者）へ対応している回答者の中では最多であった。専従・兼務・出向に関わらず障害児（者）に対応している回答者の合計は 246 人であった。県士会・協会所属会員に限るが 246 人の療法士が障害児（者）に対応していることが分かった。
「その他」には「一部対応・疾患により対応」、「相談業務で対応」、「成人・高齢者に対応」等の回答を認めた。

Q7　小児リハビリテーション MAP を知っていますか。

知っている	285
知らない	464
計	749

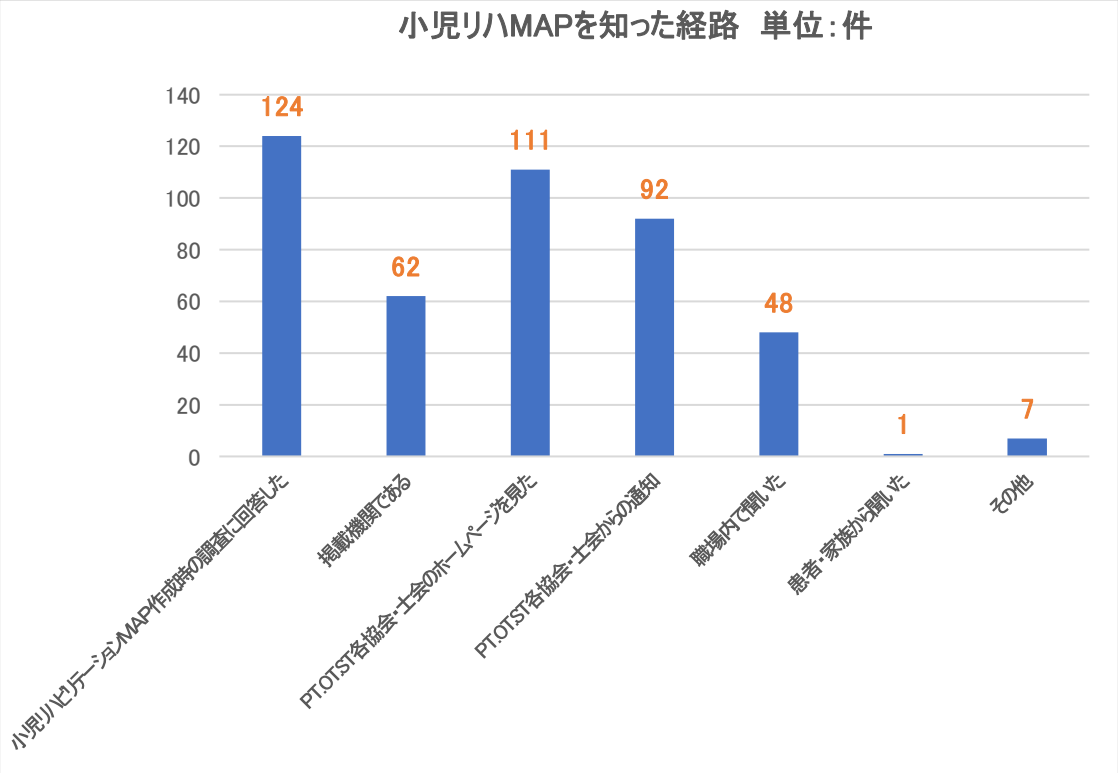


「知っている」が 265 人（38%）であり、「知らない」の方が多かった。

Q8 小児リハビリテーション MAP をどのように知りましたか。（複数選択）

小児リハビリテーションMAP作成時の調査に回答した	124
掲載機関である	62
PT.OT.ST 各協会・士会のホームページを見た	111
PT.OT.ST 各協会・士会からの通知	92
職場内で聞いた	48
患者・家族から聞いた	1
その他	7
計	445

【その他　※自由入力】
広域支援センター会議等
イケヤの研修
以前訪問リハビリテーション map の作成に携わっていたため、小児の map についても知っていた。
事業の担当者である
広域リハの活動で知った
地域リハビリテーション広域支援センターでの活動にて認知しました。
県 PT 協会のホームページで見た

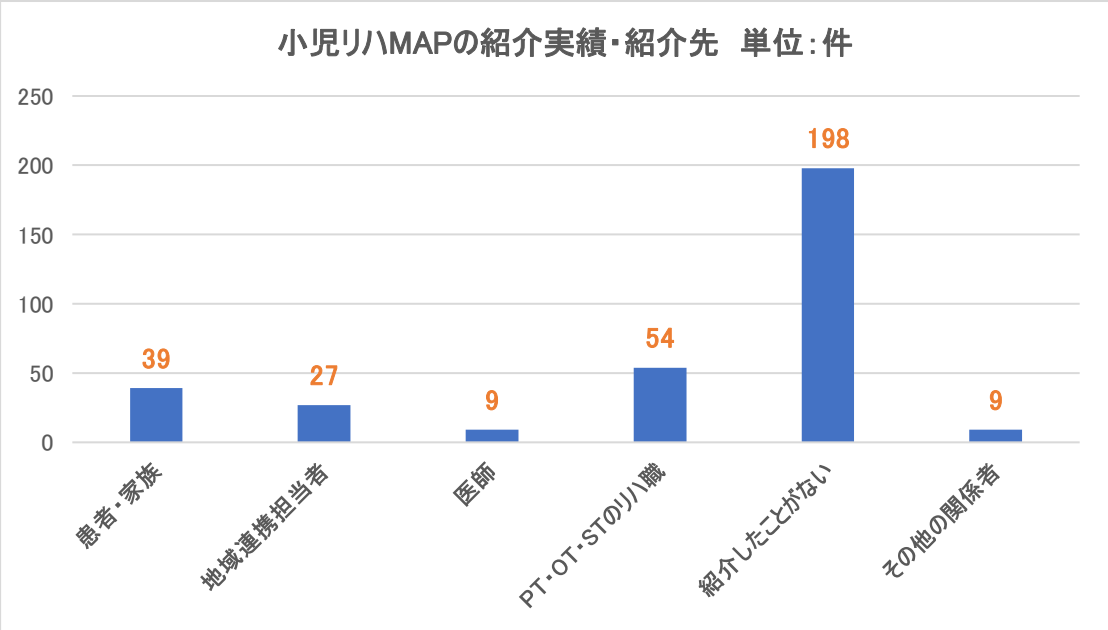


小児リハ MAP を知った経路として、「小児リハ MAP 作成時の調査に回答した」「掲載機関である」を除いては、「各協会・士会のホームページ」、「各協会・士会からの通知」の順に回答が多かった。県士会・協会所属会員への周知としてこれらの方法が有効であると考えられる。

Q9 小児リハビリテーション MAP を他者に紹介したことがありますか。（複数選択）

患者・家族	39
地域連携担当者	27
医師	9
PT・OT・ST のリハ職	54
紹介したことがない	198
その他の関係者	9
計	336

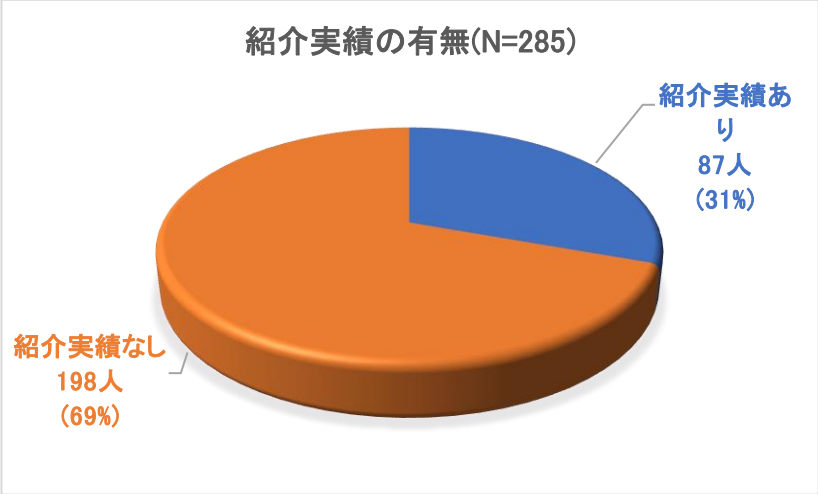
【その他の関係者　※自由入力】
通所施設の作業療法士。
市町関係職員
市町母子保健担当者
児童発達支援事業所
行政職
心理士
保健師
2022 年長崎県学会発表時に紹介実施
自治体職員（医療系・福祉系）



「紹介したことがない」が 189 人であり最多であった。紹介先は多い順に「PT・OT・S T のリハ職」、「患者・家族」、「地域連携担当者」、「医師」、「その他の関係者」であった。少なからず関係職種や患者・家族と小児リハ MAP の存在が共有されていることが分かった。

Q9 において紹介実績がある回答者数と紹介実績がない回答者数の比較

紹介実績あり	87
紹介実績なし	198
計	285



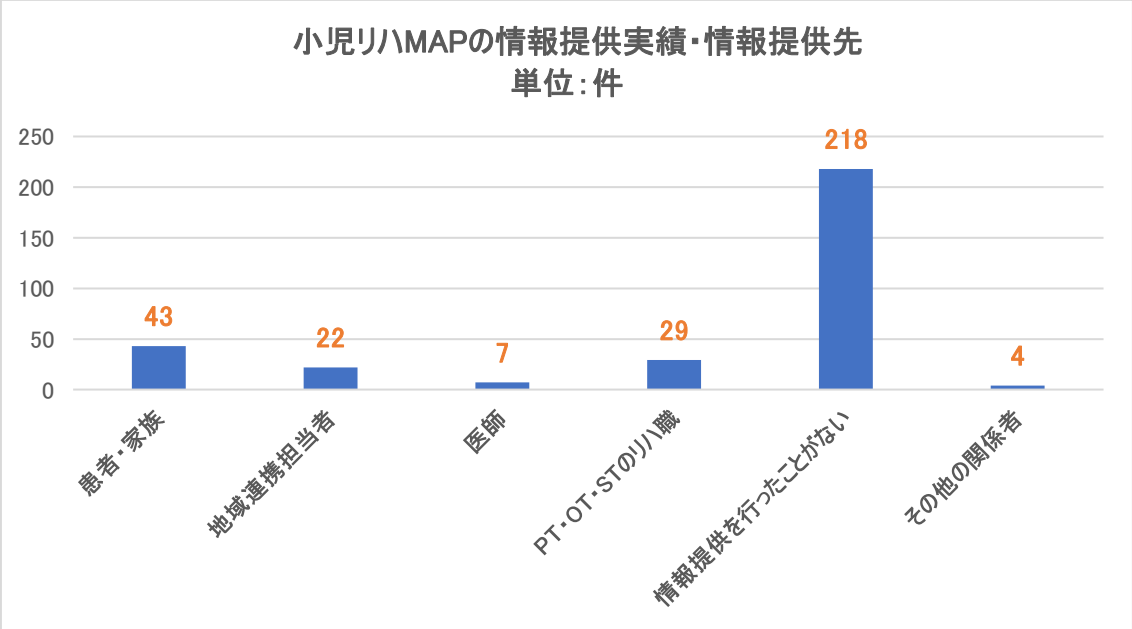
「知っている」と回答した 285 名のうち、小児リハ MAP の紹介実績がある回答者が 87 名（31%）であった。

Q10 小児リハビリテーション MAP の掲載情報を基に、情報提供を行ったことがありますか。

（複数選択）

患者・家族	43
地域連携担当者	22
医師	7
PT・OT・ST のリハ職	29
情報提供を行ったことがない	218
その他の関係者	4
計	323

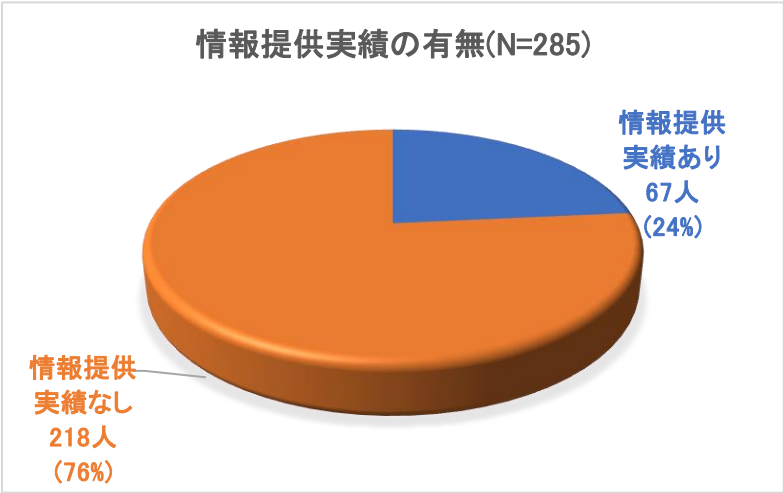
【その他の関係者　※自由入力】
市町関係職員
児童発達支援事業所のスタッフにお見せした
行政職
院内のケアマネジャー　学校



「情報提供を行ったことがない」が 218 人であり最多であった。情報提供先は多い順に「患者・家族」、「PT・OT・ＳＴのリハ職」、「地域連携担当者」、「医師」、「その他の関係者」であった。少なからず関係職種や患者・家族に掲載内容の情報提供がなされていることが分かった。Q9 において最多の紹介先は「PT・OT・ＳＴのリハ職」であったことから「患者・家族」には具体的な情報提供がなされているようである。

Q10 において情報提供実績がある回答者数と情報提供実績がない回答者数の比較

情報提供実績あり	67
情報提供実績なし	218
計	285



「知っている」と回答した 285 名のうち、掲載内容の情報提供実績がある回答者が 67 名（24%）であった。Q9 の紹介実績は 31%であり、それと比すると情報提供実績は低かった。具体的な情報提供の場面は紹介のみを必要とする場面より少なかったようである。

Q11　その他、小児リハビリテーション MAP の具体的な活用事例があればお知らせください。

（自由入力）

※内容別に分類

【特になし】
特になし(4)
{障害児（者）専門の医療または福祉機関(1)/児童発達支援、放課後デイサービス等(1)/慢性期病院(1)、その他(1)}
【福祉制度、機器の紹介】
福祉制度・機器などの紹介（障害児（者）専門の医療または福祉機関）
【情報提供に関すること】
（マイナス側面）
掲載内容の実際が必ずしも一致していなかったり、乳児だと受け入れられなかったことがある。（教育・研究機関）
MAP の紹介はするが、活用状況の詳細はわからない。（その他）
最新の情報に改訂されているのか、わからないこともあり、現場では使えずにいる。（急性期病院）
遠方の患者さんで自宅近隣に対応出来そうな病院がないか探すのに使用した。情報が古く、問い合わせると対応してなかったりすることがあった。（急性期病院）
（プラス側面）
利用者の遠方への転居の際に利用可能な施設の選択肢となった（急性期病院）
転居などに際して、転出先での対象機関を紹介するときに保護者等と一緒に見ながら検討した事がある。（その他）
小児リハ実施施設の確認、集計（急性期病院）
転勤などの引越しの際に、どこがあるか保護者の方が悩まれている時に、情報を提供しました。（回復期病院）
小児リハ実施施設の医療情報が冊子となっており、療育相談における連絡、紹介などの対応が行いやすかった。研修会企画の際にも窓口が掲載されており、相談しやすかった。（急性期病院）
家族への情報提供内容に活用（介護保険機関（通所/訪問/入所等））
自宅近隣の医療機関でリハを受けたいと希望があり、リハ MAP を紹介した。（障害児（者）専門の医療または福祉機関）
患者さんご家族への情報提供（急性期病院）
施設紹介する際、近隣施設を確認し紹介した。（急性期病院）
在籍するセラピストの職種を調べたり、紹介する際に使用して有効だった（児童発達支援、放課後デイサービス等）
長崎県内で転居する方に情報を伝える時に活用しました。（児童発達支援、放課後デイサービス等）
【活用場面が無かった】
以前見た時に、自身が欲しい情報がなく、以後あまり見ていませんでした。当時、欲しい情報が何だったのか今は思い出せません。すみません。（障害児（者）専門の医療または福祉機関）
臨床で活用する場面がない。（重症心身障害児（者）施設）
活用する機会がありませんでした。（訪問リハビリテーション）
活用事例は有りませんが、自身の知識として学べたのかなと思います。（回復期病院）
活用したことがない（その他）
【認知度、閲覧方法・レイアウトに関すること】
行政職の方は知らないことが多いようです（急性期病院）
見やすくて、わかりやすかった。（その他）
紙ベースの情報を PDF で閲覧するので、スマートフォンでは読みにくいと感じました。 可能であれば、スマホでも閲覧しやすい WEB 上のデータベースがあるとありがたいかと思います。（教育・研究機関）

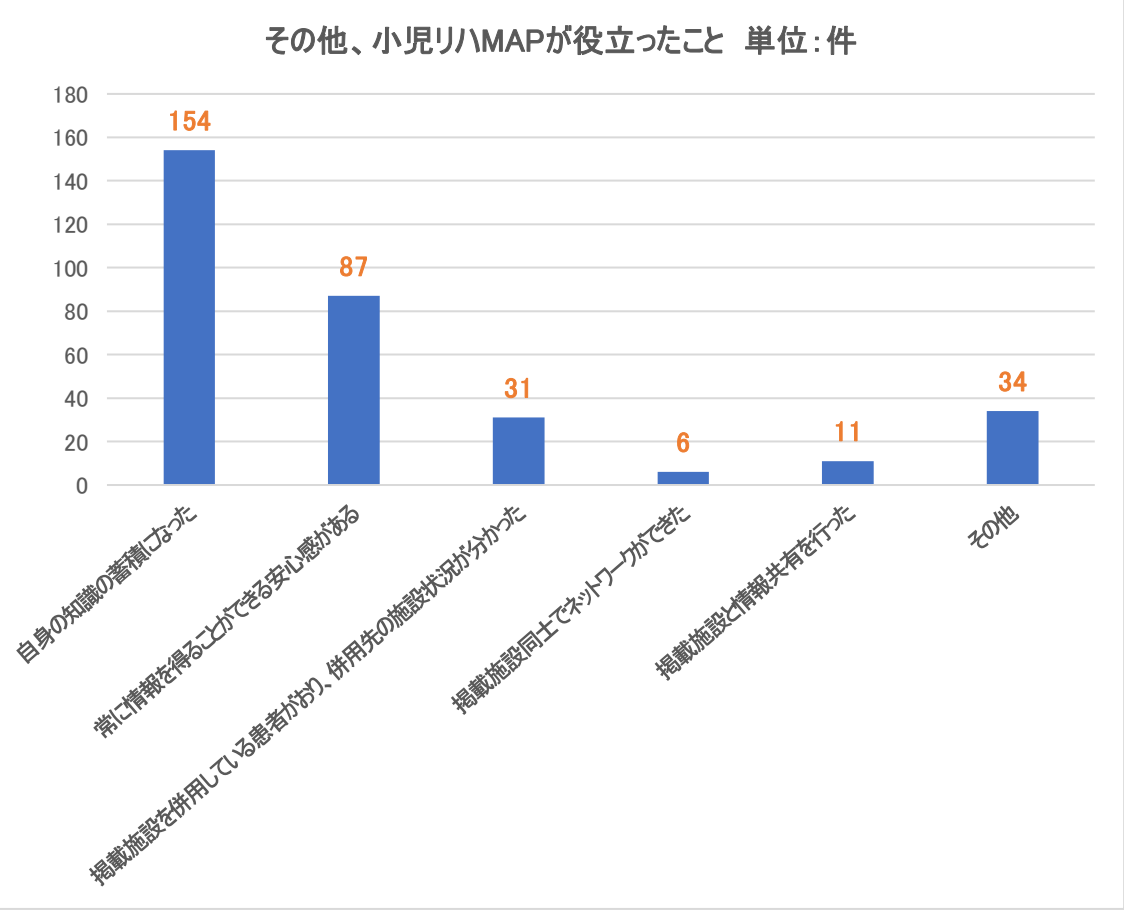
マイナス面として「情報が古い」という意見が散見された。プラス面として患者・家族への情報提供に関する活用事例を特に急性期病院所属者に散見された。急性期後の医療・療育機関の利用の際に活用されているようである。

Q12　その他、小児リハビリテーション MAP が役立ったことがあればお知らせください。

（複数選択）

自身の知識の蓄積になった	154
常に情報を得ることができる安心感がある	87
掲載施設を併用している患者がおり、併用先の施設状況が分かった	31
掲載施設同士でネットワークができた	6
掲載施設と情報共有を行った	11
その他	34
計	323

【その他　※自由入力】
特になし（16）
使用・対応の機会なし（5）
紹介先を調べる一つの手段となった
活用してない（3）
今後利用していきたいと思います
普段連携を取っていない地域の状況を知ることができる
よくわかりません。
当院では有効活用しているとは言い難いです
家族に情報を伝えるとき
小児リハビリテーションに外来で僅かに関与させてもらっただけで、経験がほとんどない
施設紹介
壱岐全島の施設、セラピスト、リハの状況を理解しているため、不用。

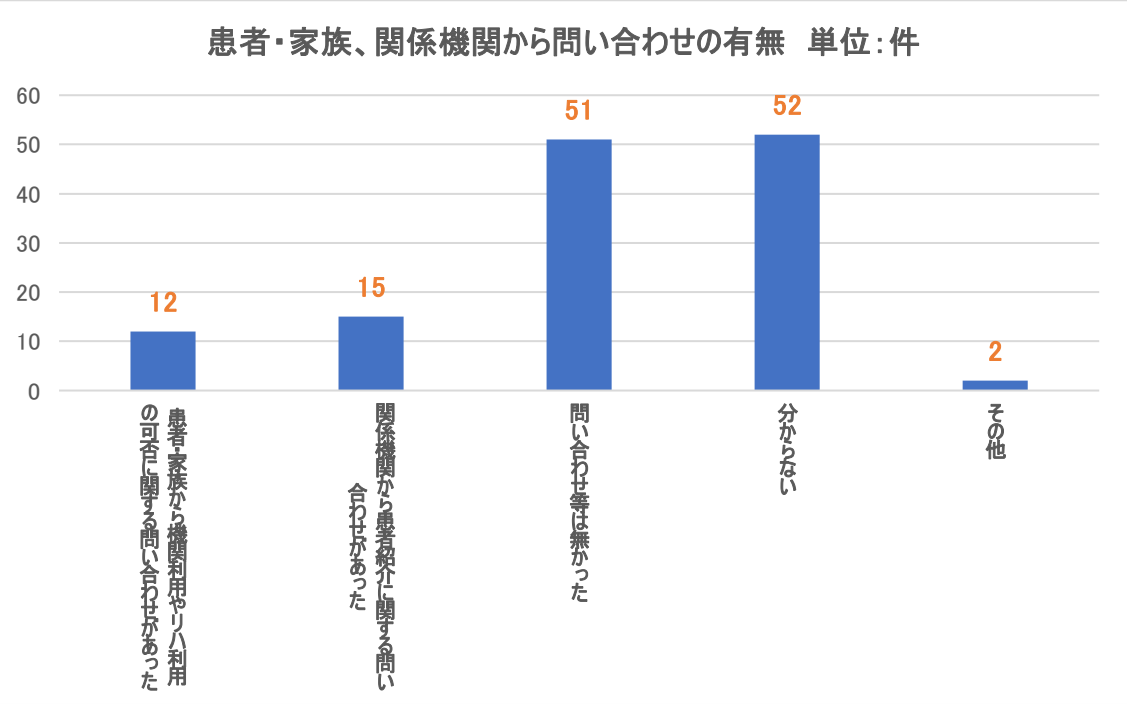


「自身の知識の蓄積になった」、「常に情報を得ることができる安心感がある」、「掲載施設を併用している患者がおり、併用先の施設状況が分かった」等といったことに役立っていた。
支援ツールだけではなく、個人の情報を支える存在意義があるようである。

Q13［掲載機関のみ回答］小児リハビリテーションMAPに掲載されたことにより患者・家族または関係機関から問い合わせがありましたか。（複数選択）

患者・家族から機関利用やリハ利用の可否に関する問い合わせがあった	12
関係機関から患者紹介に関する問い合わせがあった	15
問い合わせ等は無かった	51
分からない	52
その他	2
計	132

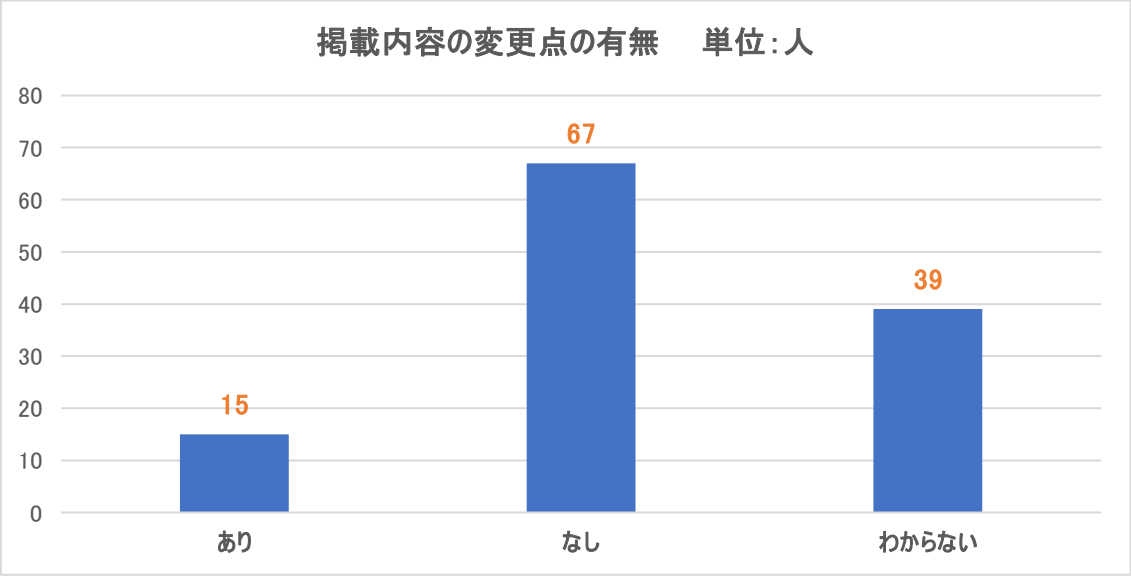
【その他　※自由入力】
MAP 掲載したことでの問い合わせかが不明であるが、問い合わせはあった。
本マップを通してのお問い合わせかは不明です。



「問い合わせ等は無かった」、「分からない」が多い中、「患者・家族から機関利用やリハ利用の可否に関する問い合わせがあった」、「関係機関から患者紹介に関する問い合わせがあった」と回答したものを認め、少なからず掲載機関の利用の検討に活用されていることが分かった。

Q14 ［掲載機関のみ回答］今回の調査時点で、掲載内容に変更点がありますか。

あり	15
なし	67
わからない	39
計	121



変更点「あり」を 15 人認めた。Q11 の回答で「情報が古い」「最新の情報に改訂されているか分からない」いう意見が挙がっており、小児リハマップを支援ツールとして継続して役立てるには定期的な情報更新の必要性があると考える。

Q15 ［掲載機関のみ回答］小児リハ MAP に掲載して良かった点（自由入力）

※内容別に分類

【特になし】
特になし(7)
{急性期病院/回復期病院/重症心身障害児（者）施設(2)/ 障害児（者）専門の医療または福祉機関/児童発達支援、放課後デイサービス等/その他}

【問い合わせに関すること】
小児リハの依頼に関する問い合わせが増えました。また、その方のお住いの近くにある施設の情報提供にも活用しています。（その他）
先にお伺いの連絡を頂き、予約を取ってからの来院患者さんが増えた点がよかったと思います。（障害児（者）専門の医療または福祉機関）
他病院から患者紹介に関する問い合わせがあった。（急性期病院）
問い合わせなどがあったときに他の施設をすぐに調べることができる（慢性期病院）

【掲載内容に関すること】
現時点でどんな病院があるか分かる。（その他）
県内の小児リハビリテーション利用可能施設の把握ができた。（急性期病院）
地域の他機関の状況がわかるのはよかった。（急性期病院）
どのような医療機関や施設があるのか、また提供している機能を把握しやすかった。（急性期病院）
他施設の情報収入がしやすい（児童発達支援、放課後デイサービス等）
他施設の小児対応状況がわかった（急性期病院）
情報の比較ができる（介護保険機関（通所/訪問/入所等））
他の病院の情報が得られてよかった（慢性期病院）
関係地域の機関を俯瞰的に知ることができる（障害児（者）専門の医療または福祉機関）

【情報提供に関すること】
関係機関への情報提供ができている。（慢性期病院）
患者さん家族（障害児・者）の親から、当院も小児のリハ対応をしていると思ってもらえた点。（診療所/クリニック）
様々な方に情報を知らせることができる。（児童発達支援、放課後デイサービス等）
他施設との情報共有になる。（回復期病院）

【その他】
今のところ MAP を見ての利用者はいないが、今後地域のためにはなるのではないかと思う。

掲載して良かった点として「小児リハマップを基に問い合わせを受けた」という回答を認めた。「関係機関の情報収集」、「所属機関の情報提供」等の活用を認めた。いずれも小児リハマップが支援ツールとして役に立っていた。

Q15 ［掲載機関のみ回答］小児リハ MAP に掲載して困った点（自由入力）

※内容別に分類

【特になし】
特になし(16)
{急性期病院(3)/慢性期病院(2)/回復期病院(1)/重症心身障害児（者）施設(3)/障害児（者）専門の医療または福祉機関(1)/児童発達支援、放課後デイサービス等(3)/介護保険機関（通所/訪問/入所等）(1)/その他(2)}

【問い合わせに関すること】
問い合わせは利用者（子ども）から直接の電話はなく、両親より直接連絡があることが多いが、事前に関わっている医療機関や市町の保健師等からの情報提供がないことがほとんど。MAP の利用として利用者が直接電話して問い合わせすることも良いが、事前に情報をいただけるとスムーズに調整ができる。できれば小児 MAP は繋げ役の機関の方々に有効に活用していただきたい。（その他）

【掲載内容に関すること】
情報の改訂がなされていなかったため、行き違いがあった。（その他）
もっと参加機関が増えると便利になると思う。（回復期病院）
実際的な環境や支援の内容、違いが分かりづらい（害児（者）専門の医療または福祉機関）
専門施設と同様の診療ができると思われるところ（慢性期病院）

【認知度・活用に関すること】
市の療育担当の保健師等が活用されていない。（急性期病院）
まだこの MAP を知らないセラピストも多いのではないかと思います。（障害児（者）専門の医療または福祉機関）

関係機関ではなく、患者・家族から直接連絡を受けることで何らかの不利益が生じるケースを認めた。掲載情報をどのように扱うか検討が必要と考えられる。また、情報が古いこと、具体的な対応状況が伝わらないことに関するデメリットが生じていた。

Q16　小児リハビリテーション MAP の改訂に向けて、新たに追加した方が良いと考える機関の情報があればご入力ください。（自由入力）

※内容別に分類

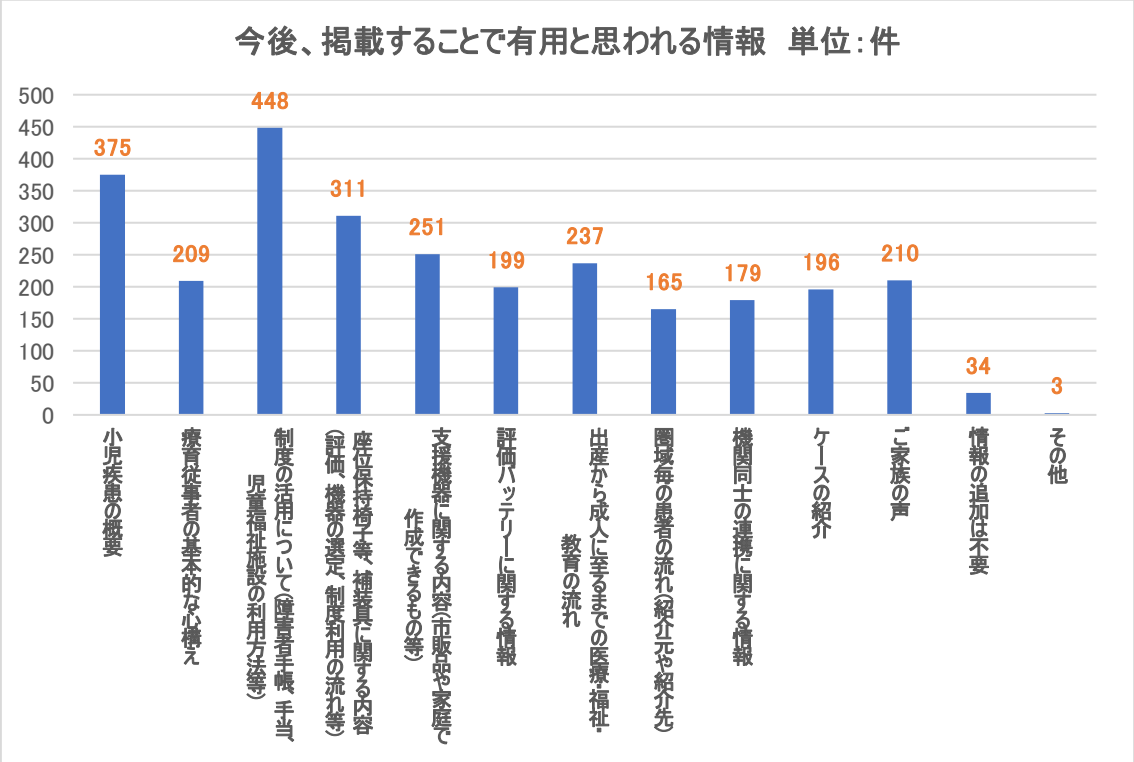
【特になし・分からない】
特になし（16）
分からない（2）
【機関の利用に関すること】
利用可能時間、利用可能曜日
リハ実施曜日
小児リハビリテーション実施の有無
対応職種の空き状況
施設入所対応の有無
発達障害の場合、PTOT 所属の放課後デイ
問い合わせ時間帯、利用時間帯、施設毎の対応事例
施設の特徴、職種の配置
施設基準
それぞれの機関の役割、対応可能エリア、対応可能業務（各種申請書作成、補装具作成等）
現時点での対応可否
【機関の取り組みに関すること】
学校機関への連携の有無
小学校へセラピストが出向いているかなど
可能な評価バッテリー
医療機関や福祉施設で行なっている具体的な支援内容について
施設の特徴の内容等にばらつきあり。実績や現在の内容、どんな対象がリハビリテーションをおこなっているのか（受け入れ可 or 不可は分かりますが）、施設毎の特色が更に分かりやすくなっていれば、見やすいかと思います。
【機関の設備に関すること】
補装具や支援機器についての情報
【機関の職員に関すること】
認定、専門のセラピストの在籍
各職種の取り組み紹介
職員の性別
【利用者に関すること】
対象年齢、小児科医の常勤の有無
対応できる月齢、年齢（2）
施設利用者数
【閲覧方法・レイアウトに関すること】
施設の写真があると、よりイメージしやすいと思います。
PDF だと検索が難しい。 昨今、様々なサイトがあり、セラピストがいるといった明確な差別化が必要と思います。
施設の雰囲気。口コミ評価など。
例として、急性期病院から紹介状を頂き、外来での病院で診察等が必要な流れが理解できる図や説明があれば、説明にも使いやすいと思います

機関の利用に向けて情報の詳細を求める意見を認めた。他、より利用しやすい閲覧方法やレイアウトを求める意見が挙がった。情報詳細を掲載すると情報量は増えレイアウトは煩雑になり、視認性は低下するため、掲載情報の厳選と、詳細な情報を得る方法の検討が必要と考える。

Q17 今後の改訂では MAP 機能に付随して支援に役立つ内容の掲載を検討しています。掲載することで有用と思われる情報について考えるものをお選びください。（複数選択）

小児疾患の概要	375
療育従事者の基本的な心構え	209
制度の活用について（障害者手帳、手当、児童福祉施設の利用方法等）	448
座位保持椅子等、補装具に関する内容（評価、機器の選定、制度利用の流れ等）	311
支援機器に関する内容（市販品や家庭で作成できるもの等）	251
評価バッテリーに関する情報	199
出産から成人に至るまでの医療・福祉・教育の流れ	237
圏域毎の患者の流れ（紹介元や紹介先）	165
機関同士の連携に関する情報	179
ケースの紹介	196
ご家族の声	210
情報の追加は不要	34
その他	3
計	2817

【その他　※自由入力】
これまでに対応等したことないためわからない
制度を活用できない対象者や、検診などでの対象者の拾い上げ。
家族会



「小児疾患の概要」「制度の活用について」「座位保持椅子等、補装具に関する内容」等の回答が上位に挙がった。他の選択肢も一定数の回答が得られ、ガイド機能として包括的に情報を掲載する必要があると考える。

Q18　活用度を向上させるために必要と思うことをお知らせください。（自由入力）

※内容別に分類

【定期的な情報発信】
各士会の研修などでの広報が必要。繰り返し耳にすることで、必要時に思い出せる。
定期的に資料の配布
定期的にアナウンスがあると、忘れる事がないかと思います。

【他職種・他機関・他団体への周知】
他の団体の研修会などでアナウンスする機会があるともっと良いのではないかと思います。
三団体に限らず、他職種の団体等にも小児 MAP の存在並びに各病院施設などにもリーフレット等の広報を行う等
市の保健師へのプレゼンが重要かと思っています。
公的機関や相談支援員（事業所）への周知
小児リハマップ活用の対象にもよりますが、医療職種や当事者、家族以外に行政や保健所、学校など地域支援者も含め幅広い周知の方法の検討が必要と感じています。三士会のホームページだけではなく、長崎市や各職能団体や学校団体、家族会などへ周知しホームページに掲載してもらうことは一つの手段かと思います。
また、医療・保健・福祉に寄与する冊子として存在することを目的とするのであれば、小児リハに関する総論や実際の流れ、療育支援に関する具体的な内容が掲載されてもいいかと考えています。
関係機関外の人にも PR する。市民イベントなどに出展するなど。
産科、小児科の病院（ご家族のお話を伺うと、意外と情報を持っておらず紹介されていないように感じます）・保健所・保健師・助産師　協会 Instagram 等 SNS での定期的な発信（小児リハ MAP の紹介など）
産婦人科などで情報が見れるといいと思います！
病院や施設、関連施設へ置くこと　小児以外の病院にも置くこと

【パンフレット・リーフレットの配布】
小児施設や、各市町村が実施している、検診等にパンフレットを置くなどした方がいいと思います。
パンフレット等で周知する。
地域包括支援センターに周知し、そこからの広がりがあるといいと思います。（もう実践されていたらすみません）
各施設ごとに MAP があることを周知してもらうためのリーフレットなどを設置する
MAP の広報、関係機関の窓口に設置するなど
小児科や病院へのポスターを貼ってもらう
病院へのポスター掲示と周知活動
広報誌またはチラシなどの配布
冊子の配付またはポスター等の掲示依頼
PT、OT、ST 関係施設、機関の情報誌や SNS 等での紹介・配信依頼
各施設へマップ配布
印刷して配る
多くの医師や医療・保健機関に資料を配布し知ってもらうこと.

【SNS 等の利用】
SNS の有効活用の実施で、周知する。
小学校や保育園にもチラシを置く instagram などの活用

【広報誌の利用】
地域の広報誌等に掲載し、地域住民が知る機会を増やす。小児科等に配布し、受診待ちの時間等に目にする機会を増やす。手に取りやすい表紙にするなど
ポスター掲示などで認知度を向上する。未就学期では健康診断の会場や子育て世代の人が出向く場所に掲示しておくとか、テレビの市からの放送、ケーブルテレビやラジオ、新聞、市報などでも身近な情報としてお知らせし続けると良いのではと思います。

【研修会等による周知】
研修などでの周知。 小児リハを行っている施設から話を聞ける機会を設ける
小児リハマップをについて周知する、職場での研修や説明会を開催する
案内文書、研修会
県学会などで対応機関からの症例やケース報告やシンポジウム
定期的な研修会の開催

【その他の方法による周知】
県士会会員外が所属しているところへのリサーチや、認知度をどうあげていくかが必要ではないかと思われます。
MAP の周知が必要と考えます。
知名度の向上
家族や医師がこの MAP 情報を拾える工夫
知らない人が多いと思うので、まずは、こういうのがあるということを知ってもらうことが 1 番だと思います。
障害児又はご家族からの口コミ情報があれば、次の行動が取りやすくなるのではないかと考えます。

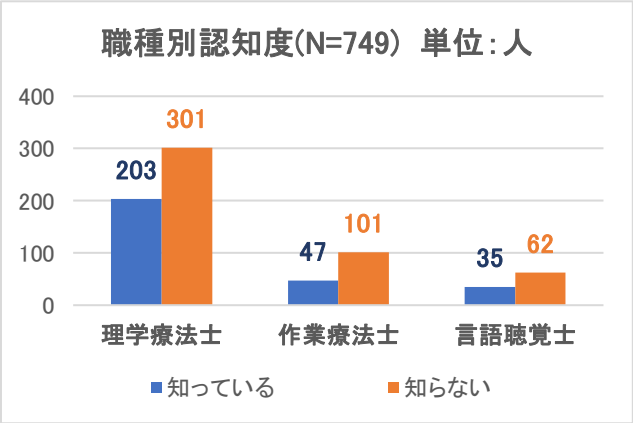
【掲載内容に関すること】
情報は多い方が良いですね
情報伝達でトラブルにならないために上記の内容が伝わると良いと思います。 しかし、それに主に従事するスタッフの過剰な負担が増えるのは不本意です。
どのような人が利用するかによって、内容を整理しては。 例えば、患者さんやその家族向け、医師向け、県外在住者向けなど。
この度はアンケート調査ご苦労様です。 可能であれば、マップ改訂のタイミングを 3 年ごとにすること、それから退職等にあたるスタッフ増減等の情報改訂の方法について、ご連絡先などをお示し、共有いただけますと幸いです。
お恥ずかしいですが、専門職の私たちでも、関わりが無いと知らない情報です。 高齢者と同様に、専門職の連携以外に地域のインフォーマルサービスにはどのようなものがあるか、障害の有無に関わらないこどもたちを地域で支えてくれる取り組みがどのくらいあるのか、 小児リハビリテーションが、地域の大人や保護者にも親しみやすいものだと良いなと勝手ながら感じました。
現在、PT・ST において障害児(者)の外来リハ実施しておりますが、2020 年度版には入っておりませんでした。次回改定される際はよろしくお願い致します。
発達障害児の支援に関する情報(特に福祉分野)の記載があると、使用する側にとって、よりよいのでは、と思いました。
利用したい方は多いと思いますが、実際のリハを受けるとなると利用枠の空きが無いことも課題と思います。その点も、踏まえた広報があればより良いかと感じます。
グレーゾーンなど実際に対象として上がってこない対象者の拾い上げと学校への連携
発達障害があるけれど、認定を受けられるかどうかのグレーゾーンの子どもたちは医療機関に行くわけでもなく、ときどきこどもセンターなどで相談する程度のケアしか受けていないこともあり、実際に小学校へ上がるときには学校も決まらず不安に思っています。そんな子ども、保護者にも有益な情報があればと思います。
小児疾患は急性期から生活期までのシームレスな連携と医療・福祉・教育・業者などの技術協力が不可欠で、足りなければ気づいたものが調整にあたる必要があると考えます。そこに気付くことができる情報と、関係機関の情報がコンパクトに集約できれば有益だと思います。
退職等で状況が変化するので、担当者の名前や連携の取り方について(例えば、9 時～17 時までお電話頂ければ対応できます。すぐに対応できない場合は折り返します。等)年単位
【閲覧方法に関すること】
スマホでみれる、キーワードでの検索機能など
協会のホームページトップからアクセスしやすくする
リンク先が多ければさらに見やすくなると思います。
map は事務的でもよいと思いますが、そこから利用者が安心して展開していけるように各登録施設のホームページなどの工夫をしてはいかがでしょうか
各士会ホームページでの掲載場所やリンクの飛び方がもっと分かりやすくなり、調べたい事がすぐに理解できる内容を提示出来ればと思います。
検索できる機能があると調べやすいと思います。
いざ、患者を前にして関連機関を探す際、冊子になっていないとネットで入っていくには手間がかかるため、今でも最初に作成したガイドブックを利用しています。その為メインの機関には冊子になった物の配布を希望します。
小児リハ MAP が一般の方向けのものであれば、″長崎県理学療法士協会 2020 年版小児リハ MAP″の画面(できれば検索時の各サイトを開く前の検索画面)で小児リハビリテーション MAP がどのようなものか、どのように活用すればいいのかがわかるような文言があればいいと思います。 現在は PDF を開くまでどのような内容が書かれているかわからないため。 例:このマップではお近くで小児リハを利用できる医療機関を探すことができます。等
【レイアウトに関すること】
もうちょっと明るい感じにしてはどうでしょうか。施設紹介写真とか画像もあれば目に留まりやすいと思います。小児リハに消極的、抵抗感を感じる方も少なからずいると思われますので、ポジティブな印象が与えられれば、より良くなると感じました。
【その他の意見】
特に無し(6)
わからない
多くのセラピストへこの MAP の活用方法を伝えていくことが必要だと思います。
周知
小児リハビリテーション MAP の PR、認知度の向上。
小児に対するリハビリテーションの理解やその活動状況が不明確で、小児科というくくりで見てしまう。リハビリテーションを前面に出して小児リハビリテーションの重要性を伝えていけるとよい。もっと活用度をあげるきっかけになる。
小児リハビリテーション MAP の認知度を上げる為の広報活動。
小児リハマップの認知度向上
行政や専門病院の連携室などへの繋がりをもっと深めていただければと思います。
認知度向上

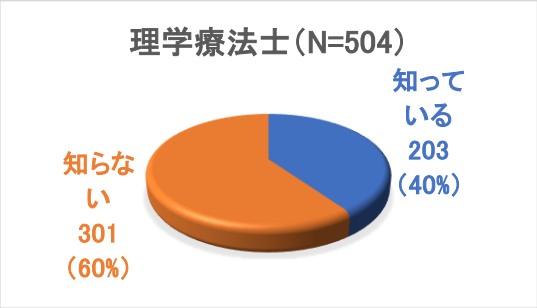
今後の活用度向上に向けて、「定期的な情報発信」、「リーフレット・ポスターの配布」、「スマホ対応」、「他機関・他団体への周知」、「SNS の利用」、「見やすい工夫」、「リンク機能」等の回答を多数認めた。立場・年齢に限らず、広く活用度向上を促すためにはいずれも必要な事項と考える。

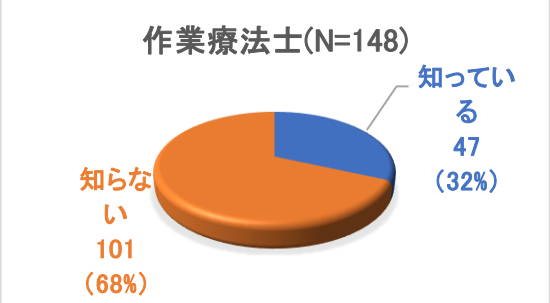
Ⅱ. 認知度の内訳

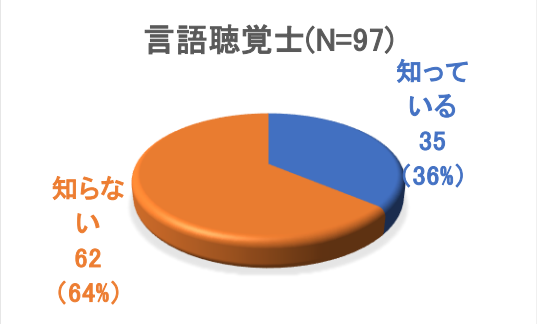
職種別認知度

	知っている	知らない	計
理学療法士	203	301	504
作業療法士	47	101	148
言語聴覚士	35	62	97
計	285	464	749





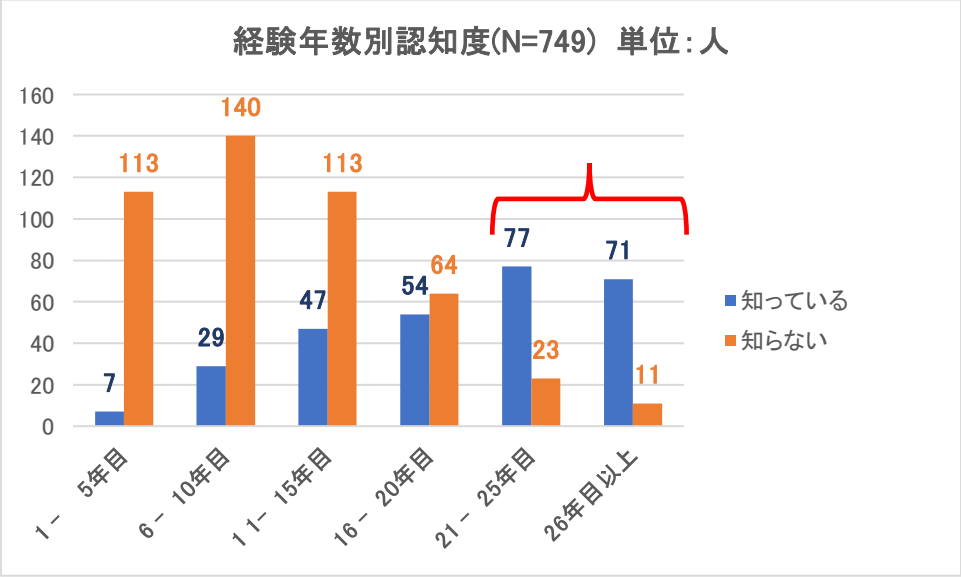




職種別認知度はいずれも 30%～40%台であった。

経験年数別認知度

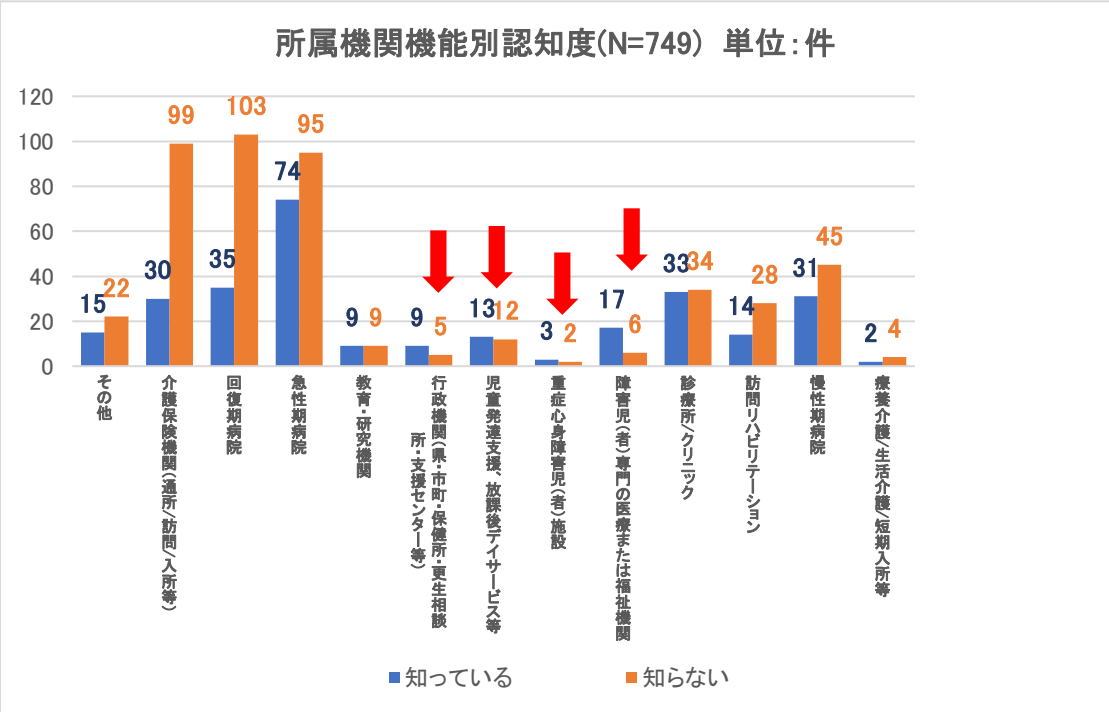
	知っている	知らない	計
1－5 年目	7	113	120
6－10 年目	29	140	169
1 1－15 年目	47	113	160
16－20 年目	54	64	118
21－25 年目	77	23	100
26 年目以上	71	11	82
計	285	464	749



経験年数別の認知度において、20 年目以下は「知らない」が「知っている」を上回り、21 年目以上においては「知っている」が「知らない」を上回った。比較的に経験年数が少ない方が情報を得る機会を確保の必要性が示唆された。

所属機関機能別認知度

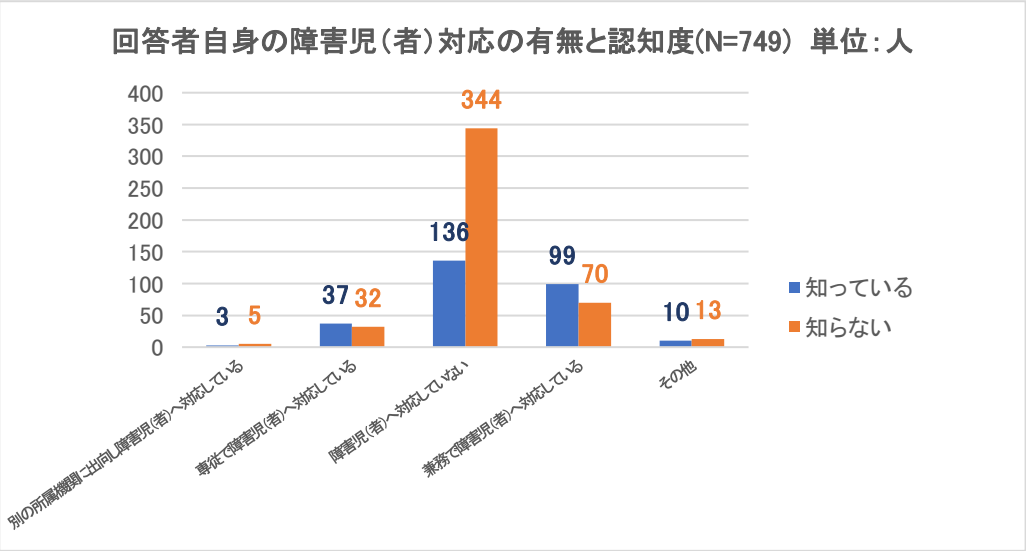
	知っている	知らない	計
その他	15	22	37
介護保険機関（通所/訪問/入所等）	30	99	129
回復期病院	35	103	138
急性期病院	74	95	169
教育・研究機関	9	9	18
行政機関（県・市町・保健所・更生相談所・支援センター等）	9	5	14
児童発達支援、放課後デイサービス等	13	12	25
重症心身障害児（者）施設	3	2	5
障害児（者）専門の医療または福祉機関	17	6	23
診療所/クリニック	33	34	67
訪問リハビリテーション	14	28	42
慢性期病院	31	45	76
療養介護/生活介護/短期入所等	2	4	6
計	285	464	749



障害児（者）専門の医療または福祉機関、重症心身障害児（者）施設、行政機関、児童発達支援・放課後等デイサービスにおいては「知っている」が「知らない」を上回った。これらの機関の所属者は実務等で認識する機会があるようである。他の機関は逆の結果であった。

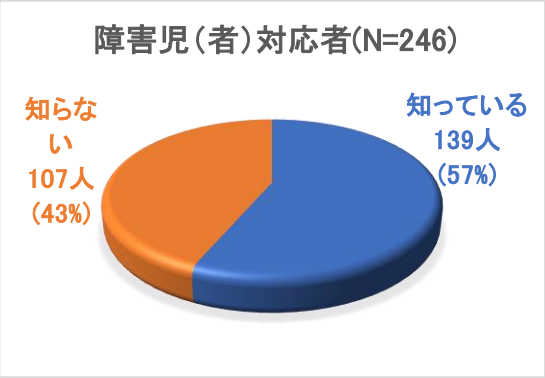
回答者自身の障害児（者）対応の有無と認知度

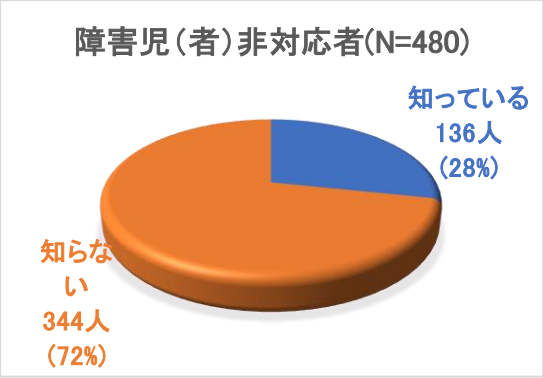
	知っている	知らない	計
別の所属機関に出向し障害児（者）へ対応している	3	5	8
専従で障害児（者）へ対応している	37	32	69
障害児（者）へ対応していない	136	344	480
兼務で障害児（者）へ対応している	99	70	169
その他	10	13	23
計	285	464	749



障害児（者）対応者（専従・兼務・出向）の合算と未対応者の認知度の比較

（※Q6 回答者ご自身の障害児（者）への対応状況において「その他」と回答した者を除く）



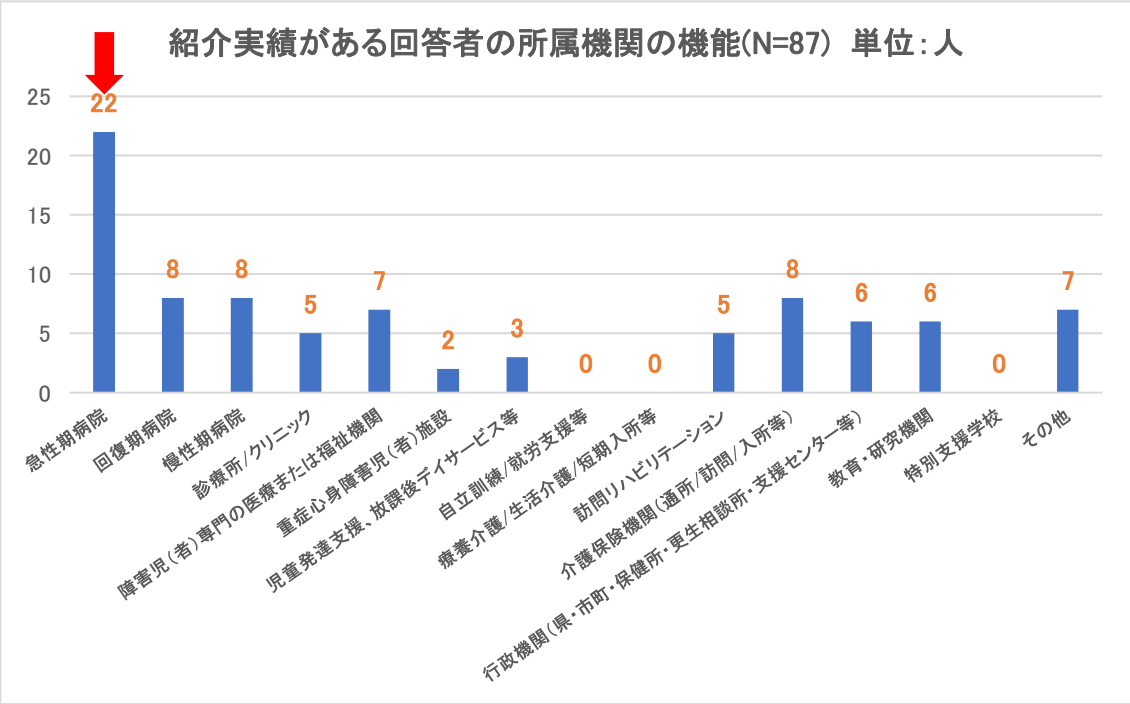


全体の認知度 38%の中で障害児（者）対応者に限定した認知度は 57%であった。また、「障害児（者）非対応者」の認知度は 28%であった。障害児（者）対応者は実務等で認識する機会があるようである。

Ⅲ. 紹介実績・情報提供実績の内訳

小児リハ MAP の紹介実績がある回答者の所属機関の機能

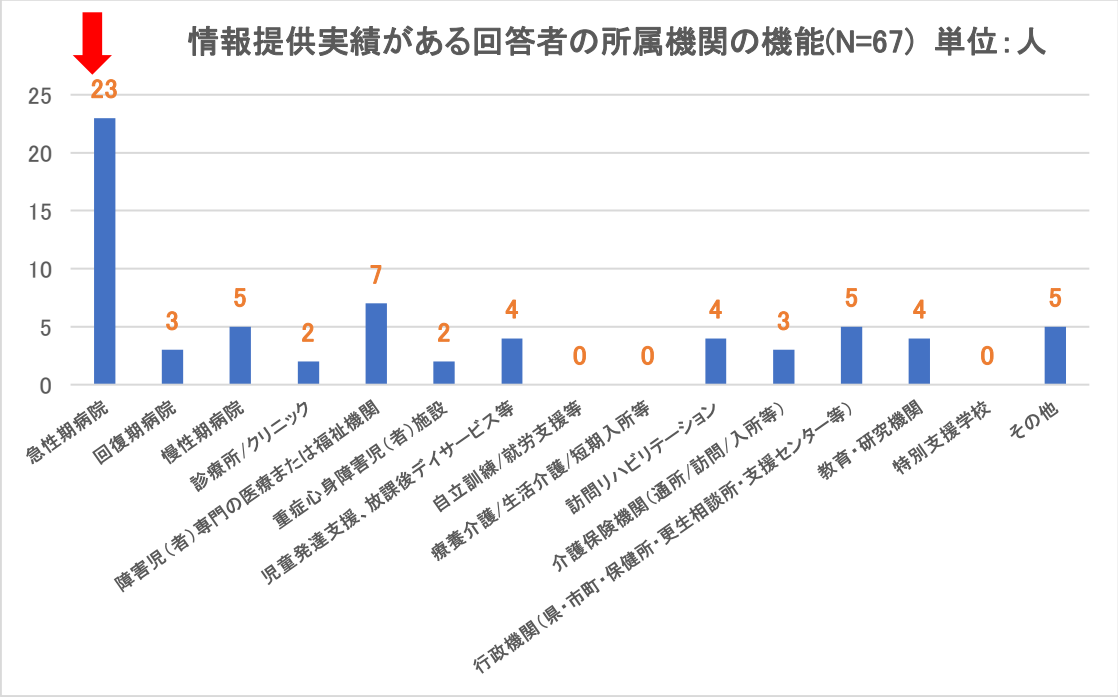
急性期病院	22
回復期病院	8
慢性期病院	8
診療所/クリニック	5
障害児（者）専門の医療または福祉機関	7
重症心身障害児（者）施設	2
児童発達支援、放課後デイサービス等	3
自立訓練/就労支援等	0
療養介護/生活介護/短期入所等	0
訪問リハビリテーション	5
介護保険機関（通所/訪問/入所等）	8
行政機関（県・市町・保健所・更生相談所・支援センター等）	6
教育・研究機関	6
特別支援学校	0
その他	7
計	87



急性期病院においては小児リハ MAP が多く他者と共有されている。Q11 においても急性期病院の利用を認めていることから小児リハ MAP が役立てられている様である。

小児リハ MAP の掲載情報を基に情報提供実績がある回答者の所属機関の機能

急性期病院	23
回復期病院	3
慢性期病院	5
診療所/クリニック	2
障害児（者）専門の医療または福祉機関	7
重症心身障害児（者）施設	2
児童発達支援、放課後デイサービス等	4
自立訓練/就労支援等	0
療養介護/生活介護/短期入所等	0
訪問リハビリテーション	4
介護保険機関（通所/訪問/入所等）	3
行政機関（県・市町・保健所・更生相談所・支援センター等）	5
教育・研究機関	4
特別支援学校	0
その他	5
計	67

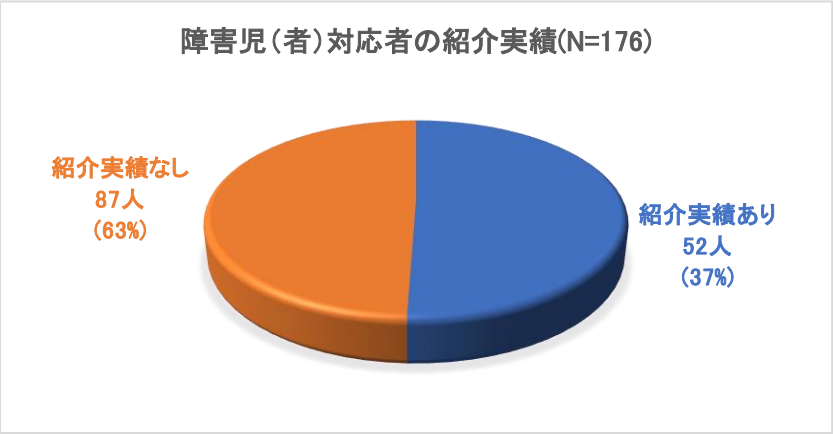


急性期病院において小児リハ MAP の掲載内容の情報提供実績を多数認めた。Q11 においても急性期病院の利用を認めていることから急性期病院で役立てられている様である。

障害児（者）対応者（専従・兼務・出向）の小児リハ MAP の紹介実績

（※Q6 回答者ご自身の障害児（者）への対応状況において「その他」と回答した者を除く）

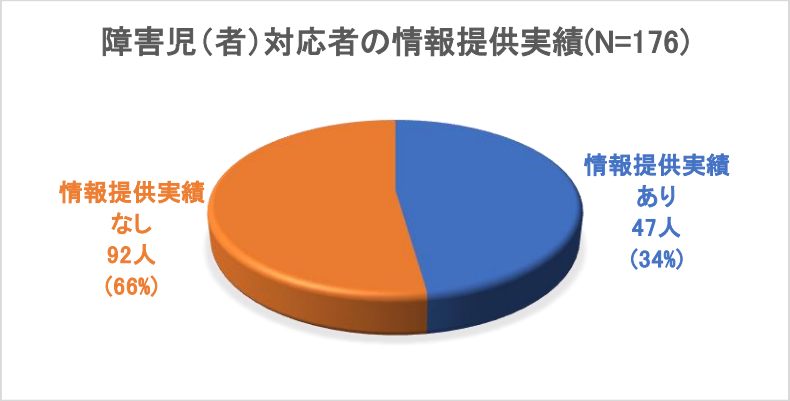
紹介実績あり	52
紹介実績なし	87
計	139



障害児（者）対応者（専従・兼務・出向）の小児リハ MAP の情報提供実績

（※Q6 回答者ご自身の障害児（者）への対応状況において「その他」と回答した者を除く）

情報提供実績あり	47
情報提供実績なし	92
計	139



全体の紹介実績 31%の内、障害児（者）対応者の紹介実績は 37%、全体の情報提供実績 24%の内、情報提供等の実績は 34%であった。障害児（者）対応者においては紹介や情報提供に役立てられていた。

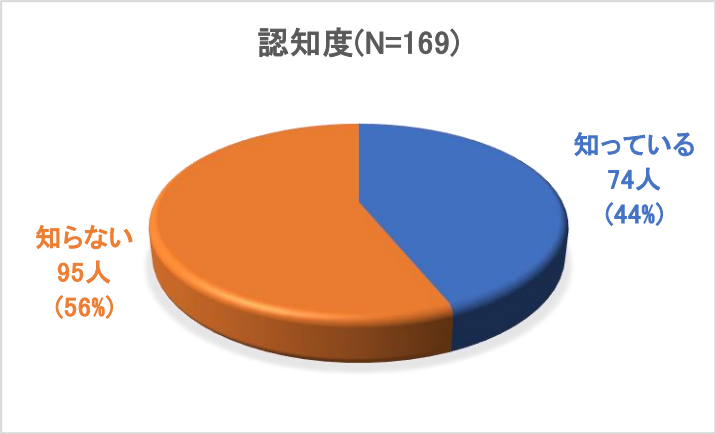
Ⅳ. 所属機関の機能別内訳

（回答数が多かった急性期病院・回復期病院・慢性期病院の内訳）

急性期病院

急性期病院における小児リハ MAP の認知度

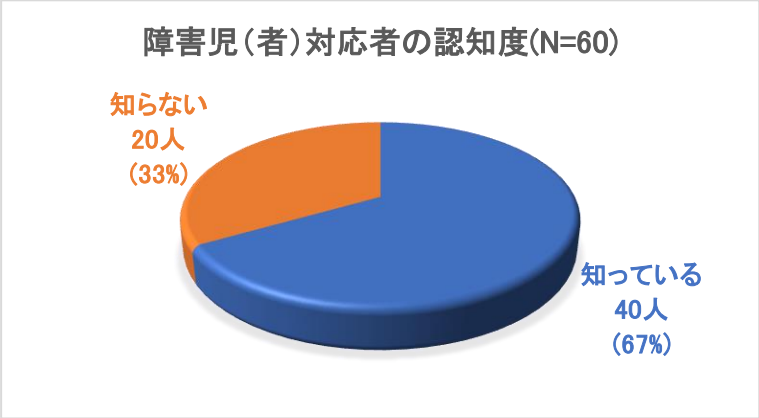
知っている	74
知らない	95
計	169



急性期病院における障害児（者）対応者（専従、兼務、出向）の小児リハ MAP の認知度

（※Q6 回答者ご自身の障害児（者）への対応状況において「その他」と回答した者を除く）

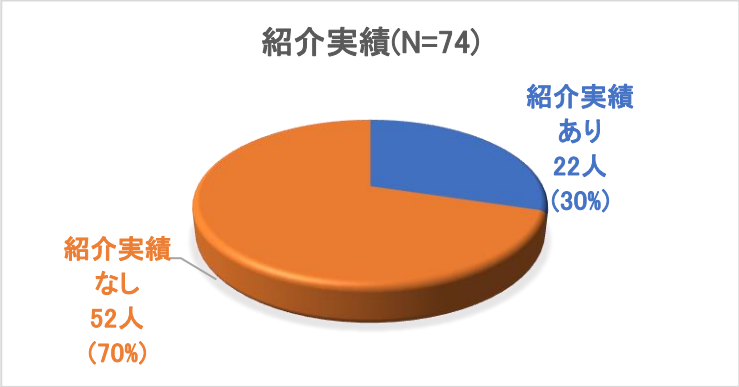
知っている	40
知らない	20
計	60



全体の認知度 38%の内、急性期病院所属者の認知度は 44%、その中で障害児（者）対応者に限定すると 67%であった。急性期病院において特に障害児（者）対応者は実務等で認識する機会があると考えられる。

急性期病院における小児リハ MAP の紹介実績

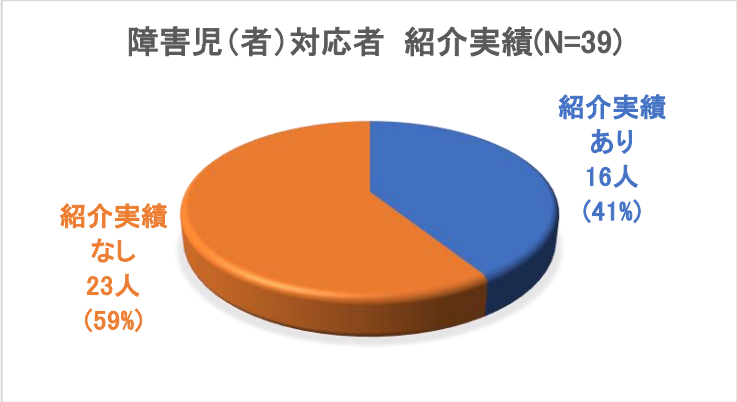
紹介実績あり	22
紹介実績なし	52
計	74



急性期病院における障害児(者)対応者(専従、兼務、出向)の小児リハ MAP の紹介実績

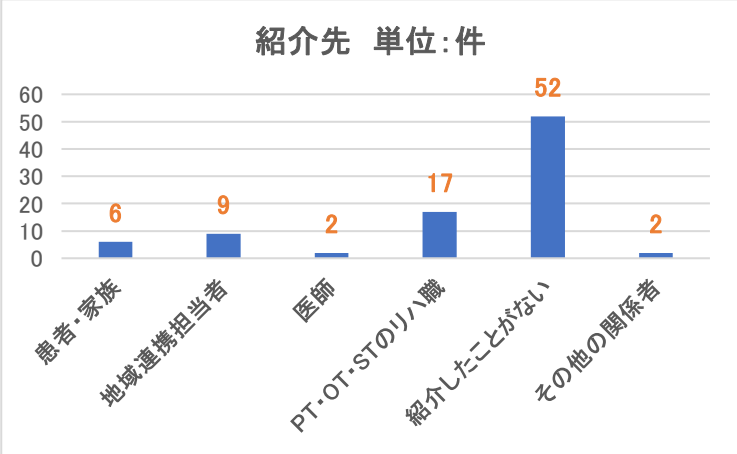
(※Q6 回答者ご自身の障害児(者)への対応状況において「その他」と回答した者を除く)

紹介実績あり	16
紹介実績なし	23
計	39



紹介先(複数選択)

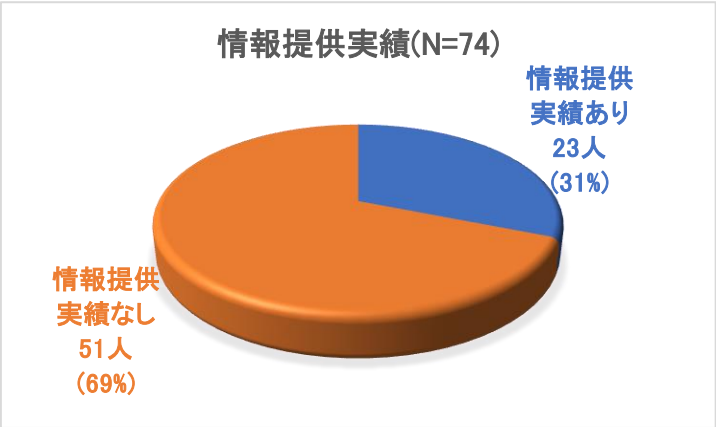
患者・家族	6
地域連携担当者	9
医師	2
PT・OT・ST のリハ職	17
紹介したことがない	52
その他の関係者	2
計	88



全体の紹介実績 31%の内、急性期病院所属者の紹介実績は 30%、その中で障害児(者)対応者に限定すると 41%であった。紹介先は PT・OT・ST のリハ職が最多、次いで地域連携担当者であった。

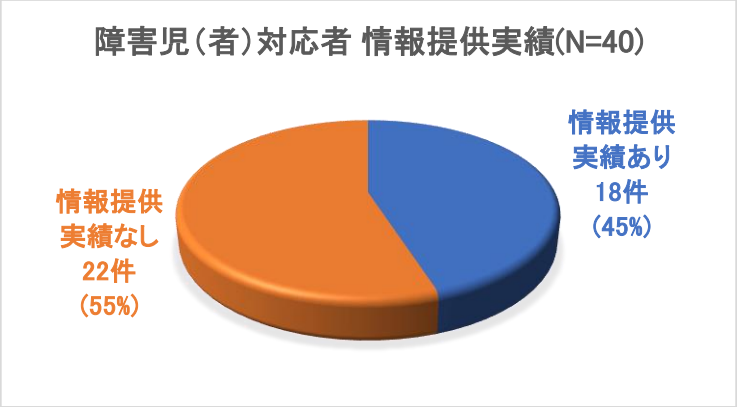
急性期病院における小児リハ MAP の情報提供実績

情報提供実績あり	23
情報提供実績なし	51
計	74



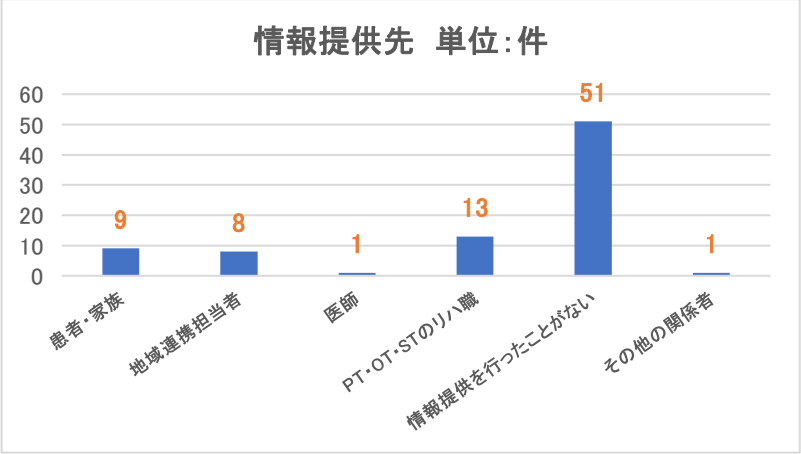
急性期病院における障害児（者）対応者（専従、兼務、出向）の小児リハ MAP の情報提供実績
（※Q6 回答者ご自身の障害児（者）への対応状況において「その他」と回答した者を除く）

情報提供実績あり	18
情報提供実績なし	22
計	40



情報提供先（複数選択）

患者・家族	9
地域連携担当者	8
医師	1
PT・OT・ST のリハ職	13
情報提供を行ったことがない	51
その他の関係者	1
合計	83

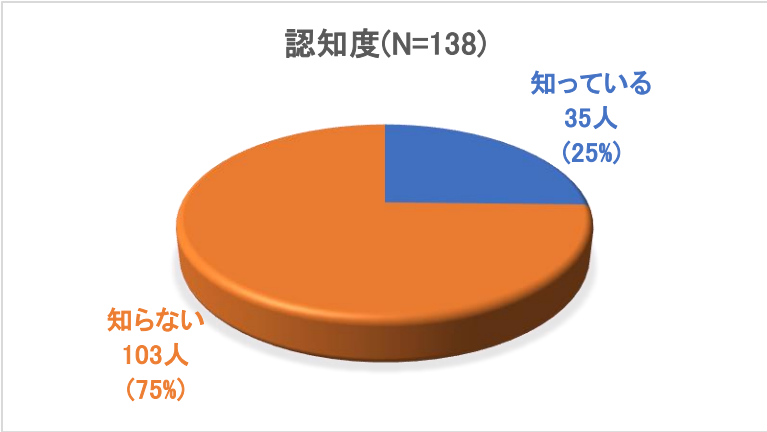


全体の情報提供実績 24%の内、急性期病院所属者の情報提供実績は 31%、その中で障害児（者）対応者に限定すると 45%であった。情報提供先は PT・OT・ST のリハ職が最多、次いで患者・家族、地域連携担当者であった。

回復期病院

回復期病院における小児リハ MAP の認知度

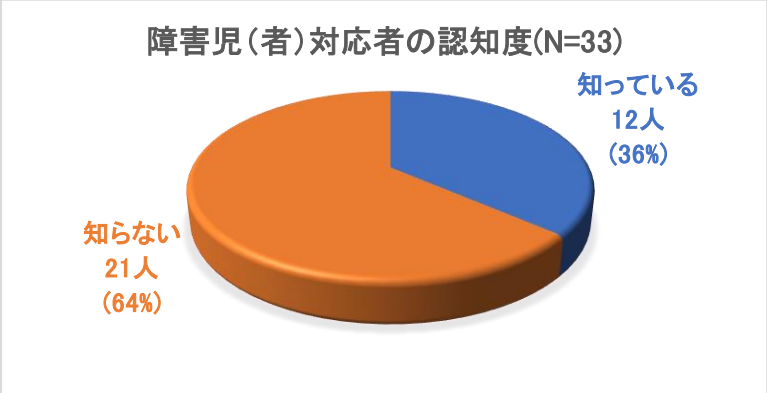
知っている	35
知らない	103
計	138



回復期病院における障害児(者)対応者(専従、兼務、出向)の小児リハ MAP の認知度

(※Q6 回答者ご自身の障害児(者)への対応状況において「その他」と回答した者を除く)

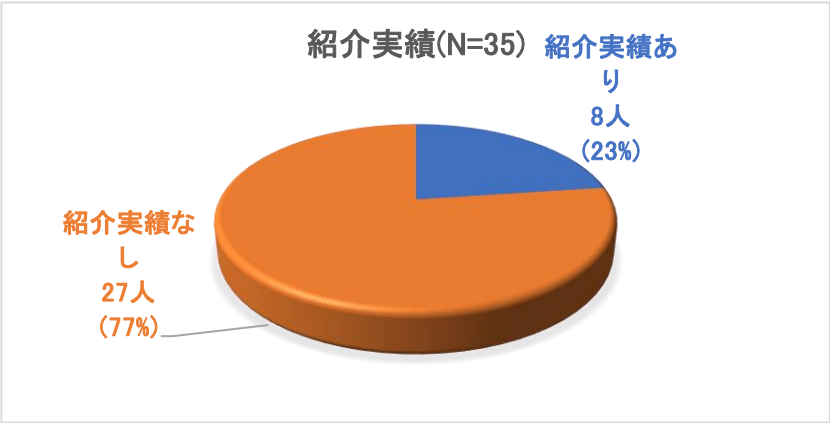
知っている	12
知らない	21
計	33



全体の認知度 38%の内、回復期病院所属者の認知度は 25%、その中で障害児(者)対応者に限定すると 36%であった。

回復期病院における小児リハ MAP の紹介実績

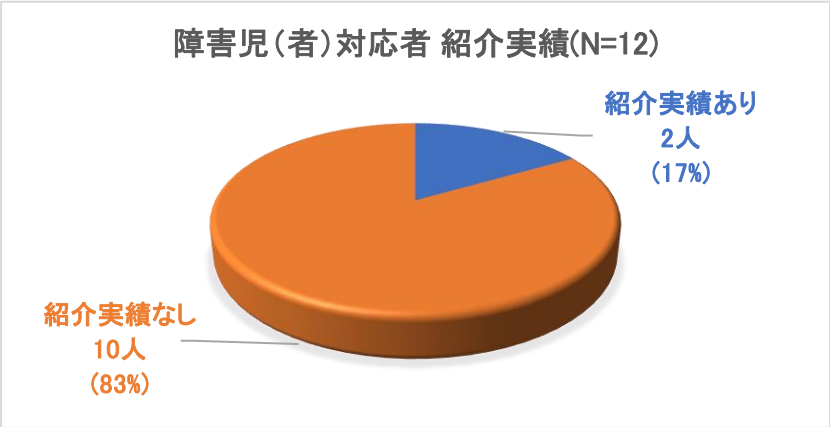
紹介実績あり	8
紹介実績なし	27
計	35



回復期病院における障害児(者)対応者(専従、兼務、出向)の小児リハ MAP の紹介実績

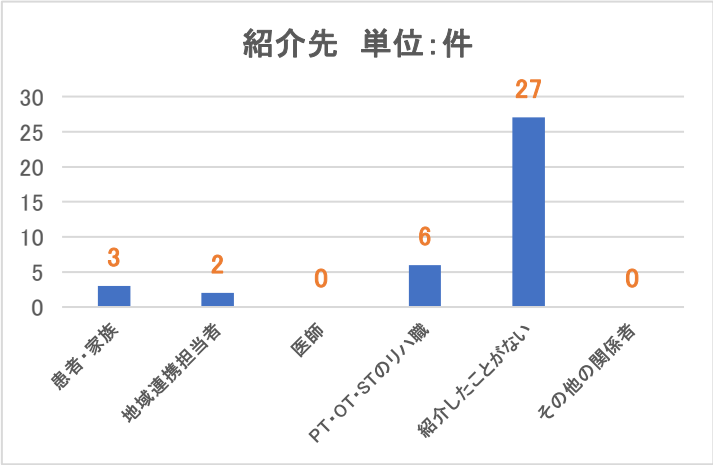
(※Q6 回答者ご自身の障害児(者)への対応状況において「その他」と回答した者を除く)

紹介実績あり	2
紹介実績なし	10
計	12



紹介先(複数選択)

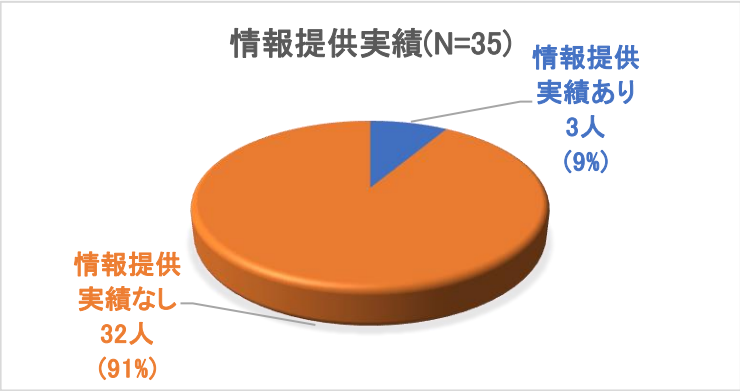
患者・家族	3
地域連携担当者	2
医師	0
PT・OT・ST のリハ職	6
紹介したことがない	27
その他の関係者	0
合計	38



全体の紹介実績 31%の内、回復期病院における所属者の紹介実績は 23%であった。その中で障害児(者)対応者の紹介実績は 17%であった。紹介先は PT・OT・ST のリハ職が最多であった。

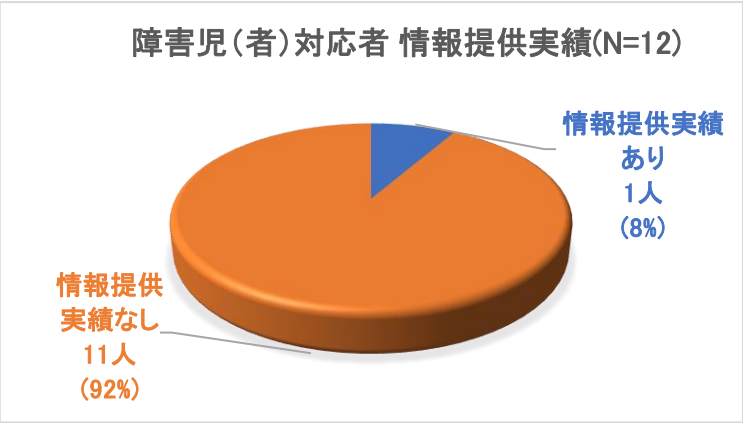
回復期病院における小児リハ MAP の情報提供実績

情報提供実績あり	3
情報提供実績なし	32
計	35



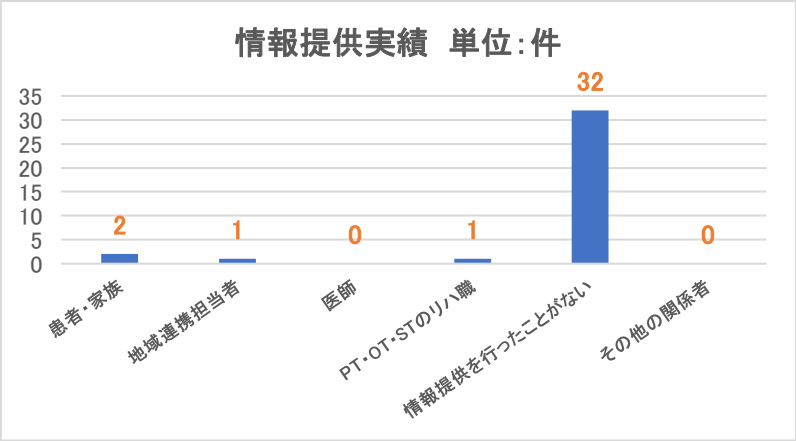
回復期病院における障害児（者）対応者（専従、兼務、出向）の小児リハ MAP の情報提供実績
（※Q6 回答者ご自身の障害児（者）への対応状況において「その他」と回答した者を除く）

情報提供実績あり	1
情報提供実績なし	11
計	12



情報提供先（複数選択）

患者・家族	2
地域連携担当者	1
医師	0
PT・OT・ST のリハ職	1
情報提供を行ったことがない	32
その他の関係者	0
合計	36

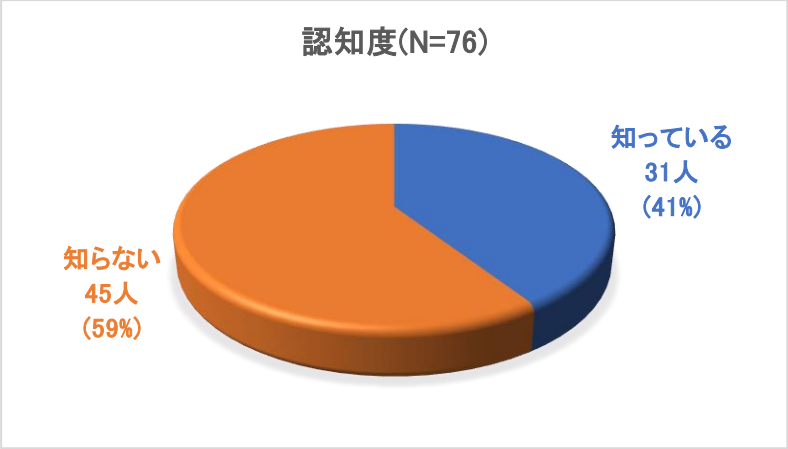


全体の情報提供実績 24%の内、回復期病院所属者の情報提供実績は 9%であった。その中で障害児（者）対応者の情報提供実績は 8%であった。

慢性期病院

慢性期病院における小児リハ MAP の認知度

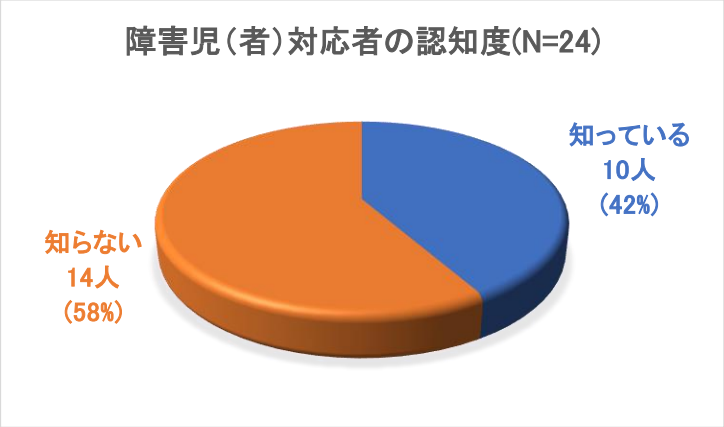
知っている	31
知らない	45
計	76



慢性期病院における障害児（者）対応者（専従・兼務・出向）の小児リハ MAP の認知度

（※Q6 回答者ご自身の障害児（者）への対応状況において「その他」と回答した者を除く）

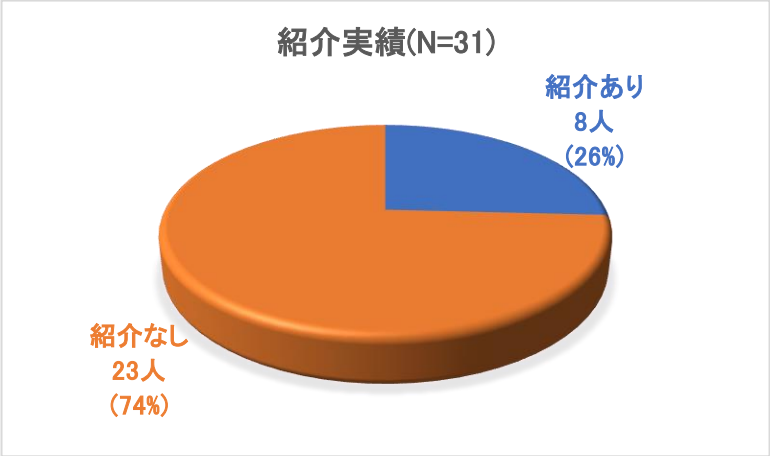
知っている	10
知らない	14
計	24



全体の認知度 38%の内、慢性期病院の認知度は 41%、その中で障害児（者）対応者（専従、兼務、出向）に限定すると 59%であった。
急性期病院と比すると認知度は若干低く、回復期病院よりは高かった。

慢性期病院における小児リハ MAP の紹介実績

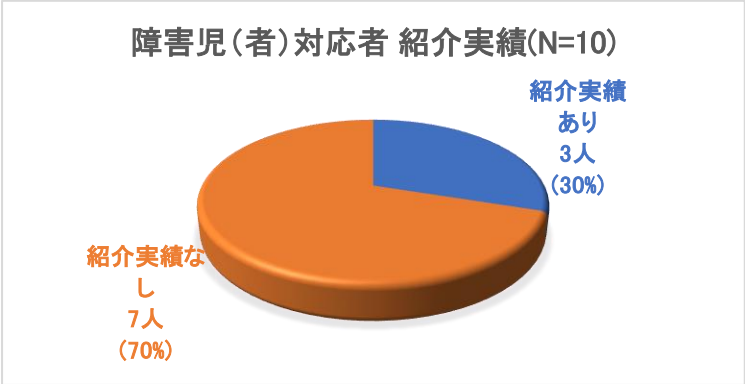
紹介実績あり	8
紹介実績なし	23
計	31



慢性期病院における障害児(者)対応者(専従・兼務・出向)の小児リハ MAP の紹介実績

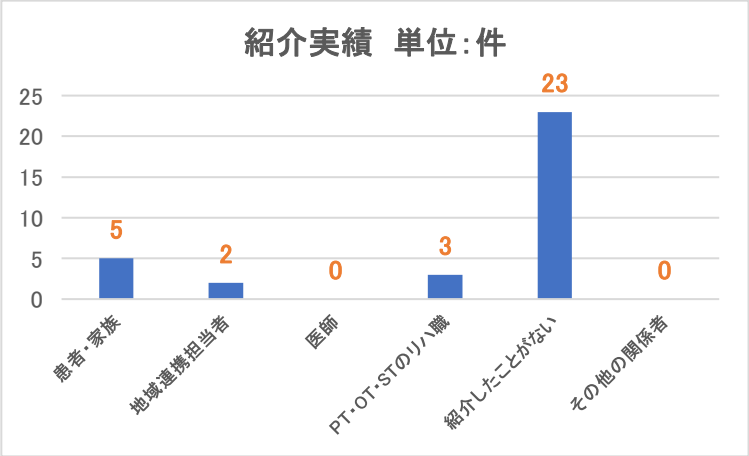
(※Q6 回答者ご自身の障害児(者)への対応状況において「その他」と回答した者を除く)

紹介実績あり	3
紹介実績なし	7
計	10



紹介先(複数選択)

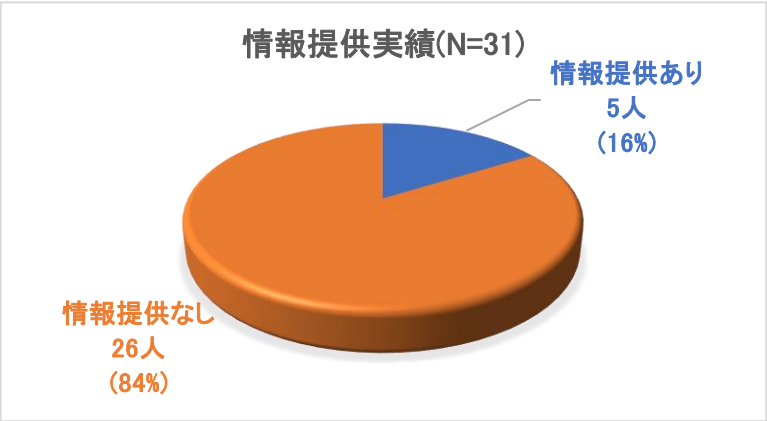
患者・家族	5
地域連携担当者	2
医師	0
PT・OT・ST のリハ職	3
紹介したことがない	23
その他の関係者	0
合計	33



全体の紹介実績 31%の内、慢性期病院所属者の紹介実績は 26%であった。その中で障害児(者)対応者に限定すると 30%であった。

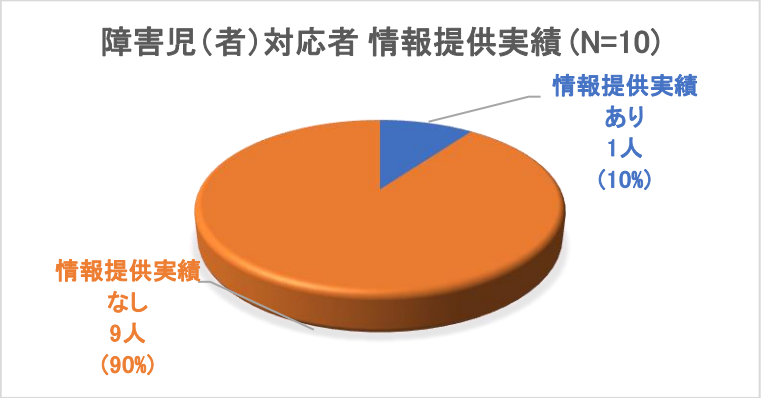
慢性期病院における小児リハ MAP の情報提供実績

情報提供実績あり	5
情報提供実績なし	26
計	31



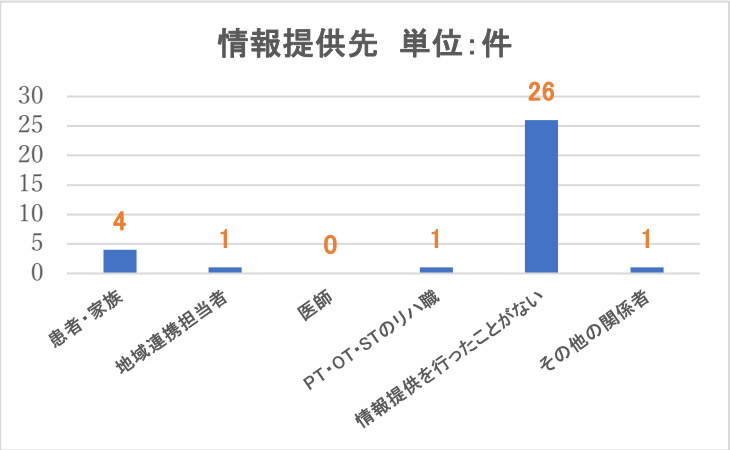
慢性期病院における障害児（者）対応者（専従・兼務・出向）の小児リハ MAP の情報提供実績
（※Q6 回答者ご自身の障害児（者）への対応状況において「その他」と回答した者を除く）

情報提供実績あり	1
情報提供実績なし	9
計	10



情報提供先（複数選択）

患者・家族	4
地域連携担当者	1
医師	0
PT・OT・ST のリハ職	1
情報提供を行ったことがない	26
その他の関係者	1
合計	33



全体の情報提供実績 24%の内、慢性期病院所属者の情報提供実績は 16%であった。障害児（者）対応者に限定すると 10%であった。

【考察】

（小児リハ MAP の認知度）

- □ 全体の認知度 38％の中で、障害児（者）対応者の合計の認知度は 57%であり、小児リハ従事者には半数以上周知されていた。また、障害児（者）専門の医療または福祉機関、重症心身障害児（者）施設、行政機関については、その他の機関よりも多く周知されている結果となった。リハ 3 職種の各回答率が 10%台から 30%台と少なかったため、会員総数で考えると、潜在的に認知・活用している方がいると考えられる。
- □ 経験年数が 20 年目以下の回答者においては 21 年目以上の回答者と比して認知度が低いことから、情報を得る機会の確保の必要性が示唆された。

（小児リハ MAP の紹介実績・掲載内容の情報提供実績）

- □ 全体の紹介・情報提供実績は 20-30%台、その内、障害児（者）対応者の紹介・情報提供実績は 30%台であった。いずれも実績は認めるものの十分な数とは言えないと考える。
- □ 紹介先は「PT・OT・ST のリハ職」が最多、情報提供先は「患者・家族」が最多であった。紹介には機関内リハ職間の情報共有や病病連携、情報内容については患者・家族へ具体的な施設情報提供の手段として活用されていると考える。
- □ 特に急性期病院においては認知度、紹介実績・情報提供実績は高かった。Q11 の自由記載においても患者・家族への情報提供や小児リハ実施施設を探す際に役立てたという意見を複数認めた。急性期リハの展開後の小児リハや療育に関しての病病連携、地域連携を目的として活用されていることが示唆された。
- □ 慢性期病院においては急性期病院ほどではないが認知度・紹介実績・情報提供実績を認めた。医療機関名を確認すると、地域医療に注力し年齢に関わらず診療を実施している医療機関を認めており、障害児（者）に対応していることによるものと考える。

（小児リハ MAP の活用方法）

- □ 活用実績と別に個人が地域の支援状況の知見を広げるための支援ツールといった個人の情報を支える社会資源として存在意義があると考えられた。

（小児リハ MAP を知った経路から得られた今後の周知方法）

- □ 調査回答や MAP 掲載施設であることを除いては、協会のホームページや通知で会員が多く認識し今後も各協会の広報の活用が有用であることが示唆された。今後、認知度・活用度を向上するためにも、広報する時期や手段について検討事項である。他職種・団体、患者・家族への周知を必要とする意見も多く挙げられており、今後は可能な限りの情報発信方法を検討する必要があると考える。

（今後の活用度向上に向けた取り組み）

□ 今回の結果より、認知度・活用度とも十分であるとは言えないが、小児リハ MAP の認知の有無に関わらず、今後の改訂に向けて必要な情報や広報手段などについて多くの意見が挙がった。以上のことからも、今後も小児リハ MAP はより活用しやすいツールとして望まれており、認知度や活用度向上を視野にこれらの意見を参考にすることで、改訂版作成に向けた取り組みが必要である。

□ 具体的にはより活用しやすいツールとして利用されるために定期的な情報更新・情報発信の必要性があると考えられた。また、見やすさの改善や詳細な情報を求める意見があり、掲載情報の整理が必要である。

【今後の取り組み：詳細内容（案）】

おわりに、今回の調査結果を受け、小児リハ MAP 改訂版の作成、認知度・活用度向上に向けた今後の取り組みを以下のように検討している。

□ 障害児（者）対応者に役立つ内容の充実化（「小児疾患の概要」「制度の活用について」「座位保持椅子等、補装具に関する内容」）等も取り入れたガイドブック的なものを作成する。

□ 障害児（者）対応者、急性期病院所属者に求められる情報の充実化。

□ 認知度・活用度向上に向けた小児リハマップの定期的な情報発信（会員内外）と情報の更新、見やすさ、リンク等の充実化等。

□ 上記に加え、必要な情報を得るために PT・OT・ST 三職種の団体事業として企画会議の開催。障害児（者）のリハビリテーションに関わる様々な立場の方に参加いただき、機関情報の調査項目、その他、掲載に必要な情報の検討、レイアウト、周知方法、運用方法、情報発信方法等の検討を行う。